世界に通用する
ハンドボールを目指して

(財) 日本ハンドボール協会副会長　多田　博

５月６日に開催された日本対韓国の試合を観戦いたしました。

女子は白熱した好ゲームで最後までチームワークを崩さず基本に忠実なプレーで総合力を発揮した日本の勝利となりましたが、残念ながら男子は個人技と総合力に勝る韓国チームに完敗でした。その結果、韓国との対戦成績は、男子43戦12勝29敗２分、女子44戦５勝38敗１分となりました。

試合前に山下副会長から「ライバルというのは勝ったり負けたりする間柄で、韓国をライバルというのは少しおかしいのではないか」との話まであったことを考えると、今回の女子の勝利は“歴史的快挙”とも言え、次期ロンドンオリンピックへ向けての貴重な第一歩と考えられます。

一方、男子は序盤こそ競り合ったものの、選手諸君の頑張りもむなしく大敗し、体力的・技術的な実力差が浮き彫りになりました。ただ、若手プレーヤーの可能性が垣間見られたことは、次の目標への収穫でした。

さて、今現在、日本のハンドボールは世界に通用するとは言えません。アジアの中においてさえ常に上位グループにいるわけでもありません。

現状では、極めて一部の選手の能力やキャラクターが賞賛されることはあっても、ハンドボール全体が国民に広く受け入れられているわけではありません。世界大会、オリンピック等の国際試合において日本チームが大活躍することを、日本のハンドボール関係者、ハンドボールファン、皆が待ち望んでいます。それは、日本代表チームが活躍すれば日本のハンドボールの普及、発展さらにサポーターの拡大につながることを皆が知っているからです。もちろん、日本協会関係者も十分自覚しています。すなわち、日本代表チームが国際的に活躍すれば、普及の面でも、マーケティングの面でも、選手の待遇面でも、その他色々な面で、今とは大きく変化することでしょう。

ハンドボールに関係している我々は、ハンドボールが観戦して本当に面白く、自分でプレーするともっと楽しいことを知っていますが、世間的にはまだそこまで認知されていません。他の人気あるスポーツとは受け入れの度合いが違います。この課題を解決するには、日本のハンドボールが世界に通用する実力をつけることです。国を代表する選手達で争われる国際試合で勝ってゆかねばなりません。

そのために、日本ハンドボール協会は何をなすべきかが大きな課題です。川上専務理事の「協会の全知全能総力をもって、ナショナルチームの強化に力を注ぐ」との提言は、まさにその答えだと考えます。日本協会をはじめ日本ハンドボール界全体が一致団結して、ベクトルをその方向に合わせると、色々な課題がハッキリ見えてくるでしょう。すなわち、ハンドボール協会の各本部や委員会が、最終的に選手強化につながる方向で、それぞれの役割を果たす必要があります。

ところで、これからの２年は、何としてもロンドンオリンピックの出場権を取得することが第一目標でしょう。

もちろん、代表選手諸君一人ひとりが心・技・体を鍛え、また監督が選手個人の力を最大限発揮させ、日本独自の強靭なチーム力を引き出すことがオリンピック出場には一番重要です。同時に、ハンドボール協会が強化という命題達成に向けて、それぞれの部門で問題点を一つ一つ解決し、全員一丸となり一体感を持って対応することが重要だと感じています。

一方、選手諸君は日本の代表であるという強い自覚と責任感を感じて欲しいと思います。日本のハンドボール界の頂点に立つ者のみが代表選手として選ばれており、ハンドボールに関係する人もしない人も皆、選手の一挙一動を見守っています。オリンピック出場という大きな目標を達成した時に賞賛されるのは、選手であり、監督です。私達協会役員は、この目標が達成され、皆と一緒に喜べるように精一杯支援してまいります。

私は、日本ハンドボール協会の一員として、日本のハンドボールを世界に通用する段階にレベルアップさせるべく、皆様と一緒に尽力する所存です。

今後ともよろしくお願いいたします。

平成20年度
第4回
春の全国中学生
ハンドボール
選手権大会

写真提供：スポーツイベント社

最終順位

■男子

優　勝	はとり（愛知）
準優勝	神埼（佐賀）
第3位	玉名（熊本）
第3位	ヴァルト岐阜（岐阜）

■女子

優　勝	神森（沖縄）
準優勝	氷見北部（富山）
第3位	光陽（福井）
第3位	原川（大分）

平成20年度第4回春の全国中学生ハンドボール選手権大会を振り返り

氷見市実行委員会事務局次長　**伊勢利弘**

本大会は、青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを目的として平成17年度を初年度として10年間氷見市で開催するものです。

初年度は、全国46都道府県から男女計92チームが参加し、第2回大会では、男子は46都道府県（青森県不出場）から47チーム、女子は44都道府県（青森県、宮城県、徳島県不出場）から45チーム、男女計92チームが参加し、第3回大会では、男子は46都道府県（島根県不出場）から47チーム、女子は45都道府県（青森県、島根県不出場）から46チーム、女子1チーム増の男女計93チームが参加して行われました。第4回大会では、男子は45都道府県（新潟県、島根県不出場）から46チーム、女子は44都道府県（青森県、山形県、島根県不出場）から45チーム、男女計91チームが参加して行われ、前回同様中学生が参加する全国スポーツ大会としては、最大規模の大会を開催することができました。

第3回大会から優勝チームに総務大臣杯が授与されるようになって、スポーツの振興だけでなく、地域の活性化に向けた努力がいっそう求められるようになってきました。

今大会は3月下旬には珍しく雪がちらつく中で行われましたが、全ての面で順調で、各チームが熱戦を展開し、特に地元の女子氷見北部中学校が準優勝して、大いに盛り上がり、予定通り終えることができました。

第3回大会から、大会前からも練習や交流試合会場を提供するようになって、本年度は特に一生懸命取り組んでみましたので、参加チームにたいへん好評でした。会場の提供や世話をしていただいた関係各位に、感謝しています。

そのほか、大会期間中長期滞在の疲れ等で体調を崩す選手がいたり、試合でけがをしたりした選手もいましたが、宿舎の皆様や医療機関、サポーターの皆様方の献身的なご支援により無事帰郷されました。

本大会を開催するに当たり、全国から訪れる人々を温かく迎え、また選手が安心してプレーが出来るよう、市内各地区から応援担当サポーターの協力をいただき、チームや保護者とのさまざまな交流を図りました。応援サポーターがチームの実情を知って、回を重ねるごとに適切なサポートができるようになってきたように感じました。加えて、市内小学生で構成する「ふるさとのびのびクラブ」の作品発表もあり、氷見市の魅力を全国に発信しようとした当初の目的は達成できました。

男子優勝チーム　はとり中学校（愛知県）

はとり中学校ハンドボール部主将　鬼頭篤史

平成21年3月25日から29日まで富山県氷見市で行われた「第4回春の全国中学生ハンドボール大会」で優勝することができとてもうれしく思います。

ぼくたちのチームは「先輩を超える！」という目標のもと日々の練習に取り組んできました。名古屋市の大会では順調に勝ち進んでいったものの準決勝で負けてしまいました。しかし、この負けをきっかけに僕たちのハンドボールにかける思いが強まり、どんなに厳しい練習にも立ち向かっていきました。そして、その思いがついに実り、春の全国大会への出場を決めることができました。

出場が決まったぼくたちにはまた新しい目標ができました。「全国大会ベスト4！」を目指し、二月の初めには全国大会に出場するチームと練習試合を行い、チーム全体の技術やチームワークを強化しました。また、大会直前には去年の先輩方が練習相手をしてくださり、そのおかげでチームの能力をアップさせることができました。

ぼくたちがこの大会で、自信があったことは体力では絶対に負けないということです。練習中倒れそうになりながらも足を引きずりがんばりました。それがこの優勝という結果に結びついたと思います。優勝した瞬間は今までの苦しさも忘れ、うれし涙がこみあげてきました。ぼくは日本一になり、ハンドボールにかける情熱は今まで以上になりました。そして、ますますハンドボールを楽しむことができるようになりました。

写真提供：スポーツイベント社

これも指導してくださった監督、コーチのおかげです。いつもぼくたちを支えてくれる保護者の力強い応援、協力があり成しえたことだと思い、とても感謝しています。これからは今大会の経験をいかし「もう一度日本一」を目指します。

写真提供：スポーツイベント社

女子優勝チーム　神森中学校（沖縄県）

神森中学校女子ハンドボール部主将　稲福麻里

私たちは、3月25日から29日までの5日富山県で開催された春の全国大会に出場しました。昨年の夏の全国大会では1回戦敗退という結果に終わったので、この大会のためにどれだけ走りこんできたか…きつさに耐えきれず、泣き出した人や、気分が悪くなった人など、自分たちにとっては想像以上の練習でした。しかし、この厳しい練習を頑張れたのは、私たちを熱心に指導してくださる監督やコーチ、いつも支えてくれた両親、そしてくじけそうになった時に励ましあってきた仲間がいたからです。

写真提供：スポーツイベント社

氷見の大会会場は、沖縄とは違う寒さや慣れない環境で戸惑いもありましたが、今回特別にトレーナーとしてついて下さった赤坂先生がいつもそばにいて、選手一人一人の体調を整えてくれました。本当に心強かったです。また、窪地区の応援サポーターの皆さんは、地元との対戦の時も、私たち沖縄を誰よりもどこのチームよりも応援してくれました。特に濱野さんは声をからしながら大きな声で私たちの名前を呼んで声援してくださいました。濱野さんありがとうございました。あと民宿「あおまさ」のおいしい料理はわすれません。こうして、私たちが全国制覇できたのは、自分たちの力だけではなく周りの方々のたくさんの支えがあったからだと思い

ます。感謝。

この大会が私たち顧問の功子先生、男子顧問の周史先生にとって最後だったので、「優勝旗」をプレゼントすることができました。そして最高の形で皆さんに恩返しすることができて嬉しいです。夏もいい結果が出せるようこれからもチーム一丸となって頑張ります。最後にこれまでお世話になったみなさん本当にありがとうございました。

前神森中学校女子ハンドボール部監督(浦添市立浦添中学校)
東江功子

春の全国大会3度目の出場で、念願の全国制覇を達成し、大変嬉しく思います。今年も氷見市の素晴らしい取り組みに感動し、応援サポーターの方々への感謝の気持ちでいっぱいでした。いつも沖縄は、窪地区の濱野さんを中心に大声援を送っていただいています。今回は2度も地元のチームと対戦したのに、大きな声で選手たちを励ましてくれました。

一昨年3位に終わり、今回はそれ以上の成績を残したいと思っていましたが、選手一人ひとりは「全国制覇」を目標にしていたようです。自分たちの力を発揮できれば優勝できると信じて一戦一戦を勝ち抜き、最終日の準決勝では、チームの心も一つになり、大きな選手を相手に果敢に攻め、チャレンジしていく姿からはチームの成長を感じました。決勝の前には選手一人ひとりの集中した雰囲気に内心"今日はいける"と感じていました。最近は、勝つ時と負ける時、苦戦する試合などはアップのときから選手の状態でいろいろ感じることがあります。実際に試合が始まって選手たちがのびのびと自分たちのプレーをしている姿に感激しました。この大会を最後に神森中を離れることになっていた私は、途中込み上げてくる涙を抑えるのに必死でした。初の神森中学校女子優勝は、最後で最高のプレゼントでした。もちろんこの優勝の陰には、トレーナーの赤坂先生、技術指導をしっかりとしてくれた主人であるコーチの存在は欠かせません。これまでたくさんの方に支えられ、応援していただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。皆様、本当にありがとうございました。

最後に神森中学校の春夏連覇を願い、私自身も新しい学校でまた頑張りたいと思います。

戦　評

【男子】

▼準決勝

神埼　32（16－11、16－13）24　ヴァルト岐阜

前半、神埼は3番益田のシュートで先制し、5番北島のサイドシュート、速攻シュートで5対0として勢いに乗った。ここでヴァルト岐阜はタイムアウトを取り流れを変えようとしたが、神埼の堅い守りをなかなか崩すことができない。7分に7mスローで1点を返すものの、神埼の速攻からの速い展開についていけず8対1までリードを広げられた。その後、岐阜は3番望月のカットイン、6番加藤のシュートで連続得点を重ねて追いすがり、前半は16対11、神崎のリードで折り返した。

後半も神埼の3連続得点から始まり、岐阜は5－1ディフェンスやダブルマンツー・ディフェンスをしかけるが、神埼5番北島のサイドシュートを止めることができなかった。両チームとも点を積み重ねていくが、点差は縮まらず、勢いが止まらなかった神埼が32対24で勝利を収めた。

はとり　23（12－11、11－9）20　玉名

前半、硬さの目立つはとりに対し、玉名は多彩なパスワークでリズムをつくり、流れを引き寄せる。一方はとりは、13番笹川を中心に粘り強い1対1やミドルシュートなどで、前半13分過ぎにはリズムを取り戻し、7対7の同点に持ち込んだ。その後、両チームのゴールキーパーの好セーブも光り、一進一退の攻防が続いた。はとりは、タイムアウト後、逆転に成功し、1点リードで折り返した。

後半も、両者とも気迫のこもったシュートでシーソーゲームが続くが、後半10分過ぎに、11番鬼頭、13番笹川、14番中島らが確実にシュートを決めたはとりが5点差をつけてリードした。玉名は、8番嶋田のロングシュートや3番井手のカットインなどで応戦するが、玉名得意のポストプレーを封じたはとりが勝利した。

▼決勝

はとり　25（14－9、11－11）20　神埼

はとりのスローオフで男子決勝が始まる。先取点は神埼3番益田のステップシュート。対するはとりも13番笹川の1対1から5番原口がサイドシュートを決め、互角の立ち上がりを見せる。その後も両チーム加点して10分過ぎまで4対4の同点で共に譲らない。しかし、はとりは12番GK溝川の好守と相手のミスからの速攻で加点し、主導権を握る。一方、神埼も18分、19分に3番益田がステップシュートをたて続けに決めて追いすがるが、はとりは14番中島、15番井上のポストシュートと13番笹川のミドルシュートで引き離し、5点リードで前半を折り返した。

後半開始、両チーム共にミスが続く中、神埼が先に速攻につなげて得点し、追い上げムードが高まる。はとりもすぐに応戦し、13番笹川の速攻で6点差とする。神埼は4－2ディフェンスで相手のミスを誘いにかかるが、はとりは12番GK溝川の好セーブから速攻につなぎ1対1のフェイントからのシュートで加点し、追い上げを許さない。神埼は、はとりの13番と11番にダブルマンツーマン・ディフェンスをしかけて勝負をかけるが、18分過ぎに痛恨の退場者を出し、はとり11番鬼頭が7mスローを決めて8点差とする。神埼も20分過ぎ、相手のミスから追撃するが、前半のリードを守りきったはとりが5点差で初優勝を果たした。

写真提供：スポーツイベント社

【女子】

▼準決勝

氷見北部　30（14－9、16－9）18　原川

開始30秒、2番佐藤の速攻から左サイドシュートで原川が先制する。原川はその後、立て続けに4番後藤の右サイドシュートなどで得点を重ねるが、氷見北部も4番森（彩）のカットインシュートなどで食らいつき、前半9分までに5対4で原川がリードする。両チームとも速いボール回しから、カットイン、サイドシュートなどをねらうが、堅いディフェンスとゴールキーパーの好守により、1～2点差の展開が続く。原川5番伊藤の退場を機に、前半15分過ぎ、氷見北部は5番田嶋のサイドシュートでついに逆転する。氷見北部はその後、1番山田の好セーブから、6番池森のポストシュート、9番森（優）のカットインシュートなどで差を広げ、前半は14対10、氷見北部4点のリードで折り返した。

後半に入っても、原川は、7番田上のポストシュートなどで得点するものの前半の流れを変えられず、後半8分までに6点まで差を広げられる。さらに、氷見北部の堅い守りとゴールキーパーの再三の好守に阻まれ、8分間以上の無得点が続いた。その間、氷見北部は、8番高木の速攻など7得点をあげ、着実に点差を広げた。

結局、30対18で氷見北部が初の決勝に駒を進めた。

光陽　22（9－12、13－15）27　神森

開始直後、硬さの目立つ光陽に対して、神森は5番末吉の2連続シュート、パスカット、ルーズボールからの連続速攻で4対0とリードした。光陽はすかさずタイムアウトをとり、立て直しを図るが、リズムがつかめず前半9分で8対1と大きく引き離された。その後、神森にパスミスが続き、それに対して足が動き始めた光陽は、9番木村、5番奥村、3番田中らの連続得点で9対7の2点差まで詰め寄るが、お互い譲らず、前半を12対9の神森リードで折り返した。

後半、光陽は3番田中の2連続サイドシュートで12対11と1点差に詰め寄るが、神森ゴールキーパー1番保田の好セーブに阻まれ、さらには神森の絶妙なパスワークからの攻撃を守れず、15対11と点差が広がった。光陽は途中2名の退場者を出しながらも何とかしのぎ、終盤につなげようとしたが、最後まで足を動かし続けた神森が得点を重ね、決勝進出を手にした。

▼決勝

氷見北部　20（8－12、12－11）23　神森

前半立ち上がりから15分過ぎまで氷見北部は速いパス回しから6番池森のカットインシュート、4番森彩華のミドルシュート、神森は遠い間合いから走り込んでの15番末吉、11番大城のミドルシュートなどで得点を重ね、お互いに主導権を譲らない。15分過ぎに神森は6－0ディフェンスから5－1ディフェンスにシステムを変えたことで、相手のパスのインターセプトを狙った。パスカットを得点につなげた神森が一気に均衡を抜け出し、4点のリードで前半を折り返した。

後半に入り、神森はロングパスで氷見北部ディフェンスを左右に揺さぶり、15番末吉の巧みなポストパスや自らのミドルシュートで得点を重ねた。一時は6点まで開いた得点差を氷見北部は粘り強いディフェンスや9番森優稀のサイドシュート、4番森彩華のミドルシュートで少しずつ点差をつめ追いすがった。しかし、前半についた4点差は大きく、3点差で逃げ切った神森が初優勝を飾った。

2点とも　写真提供：スポーツイベント社

日韓代表国際交流定期戦2009

日時：平成21年5月6日
会場：川崎市とどろきアリーナ

▶総　評………女子代表ヘッドコーチ　黄　慶泳

大会の事前準備として、ナショナルトレーニングセンターで２回に分けて合宿を行いました。１回目の強化合宿は（４月２日（木）－10日（金））、強化ポイントとして、①トータルフィットネスの強化（スピード＆スタミナ）、②基本プレーの徹底、③基本戦術の確認を行い、２回目の強化合宿（５月１日（金）－５日（火））では、更に、①実戦練習の中で基本プレーの確認、②紅白ミニゲームを通して試合感覚確認を行いました。

大会の狙いとしては、戦う姿勢と勝利に対する執念の違いが試合の中で表れているのか、１時間トータルで戦えるフィットネスが韓国に負けないこと、相手の攻撃力を引き下げることなどを意思統一しました。

大会での成果として、新キャプテンを中心として世帯交代を図りながら韓国戦を戦ってみて、チーム全員の戦う姿勢と勝利に対する執念が試合の中で変わりつつあるのが一番の収穫でした。又、１時間戦えるトータルフィットネスに関しては、前半10分から20分間の間に攻撃が行き詰まる展開となったが、その場面を守りから速攻の展開で勝ち試合が作れたのはスピードを生かしたい日本の良さを引き出せた局面だと思っています。相手の攻撃力の抑制では、27点で抑えたので、

数字の上では成功したと判断しています。

課題も多くありましたが、相手の守備態勢変化への対応力の強化、メンバー交代する時の明確な戦術の変化とチーム全員の意思統一が挙げられます。

最後に、今回の日本代表は世帯交代を進める中で新しい選手の登用もありましたが、韓国も今回の日韓戦で中間層の選手と若手の混合のこれからのチームでありました。結果に関しては喜んでいますが、韓国内と海外でプレーしている選手の中ではロンドンオリンピックまで活躍可能な優秀な選手が何人かいます。今より強いチームであることは意識した中で強化を進めて行きたいと考えています。

今後の取り組みとしては、12月の世界選手権を当面の目標として強化活動を行う予定です。

明確な目標値を設定しながら体力強化を継続し、ヨーロッパ等の海外選手との戦いを準備する中で大型対策にポイントを置いて強化を進めて行きたいと考えています。

最後になりますが、関係各位には今後ともご支援ご声援頂きますようお願い申し上げます。

▶総 評………男子代表ヘッドコーチ　酒巻 清治

大会直前の強化合宿（5月1日～5日、ナショナルトレーニングセンター）を行いました。

体力面では、体重のコントロール、ウェイトトレーニング、持久力トレーニング、パワー系トレーニングを実施、又、技術面では、DF システム（DF についてシステム上のルールとポジション別個人の役割）と、OF 準備（相手 DF のウィークポイントを狙うための「キッカケ」の確認と継続的オフェンスを展開するための「個人の判断」を向上）を図りました。

試合前のチェックポイントとして、ディフェンス面では、得点源であるラインプレーヤーに対しての守り方、1：1の局面で基本姿勢を保つことによる短時間で失点するケースを失くすこと、9m付近からのシュートに対して GK とコンビネーションを図ること、チームディフェンスにおいて各ポジションでの「約束」を果たすことができるかとしました。一方、オフェンス面では、攻守の切り替えがスムーズに行われかつ数的優位な状況を獲得しているケースでのゴールをゲット、各ポジションでの個人パフォーマンスがコンビネーションに活用されるか、ボールを保持しない選手が味方のパフォーマンスを利用できているかなどとしました。

結果としては大変残念な結果になってしまいましたが、韓国との「差」が顕著に現れました。現在進めている強化を経て個人のレベルアップを図り、海外テストマッチを繰り返し、来年2月の世界選手権予選に備えます。今回の対戦により韓国選手の個人レベルを推し量ることができ、強化の目安を得たことは大変有意義でありました。

大会後の課題としては、ディフェンス面では、ラインプレーヤーに対する守り方を改善しなければならないですが、現時点では「満点」ではないがより改善できる見通しが立ちました。更に、チームディフェンスにおける「約束事」を徹底する姿勢は見えてきたものの、結果として表現できていないケースもあり、今後も継続していくことを考えています。又、オフェンス面では、個人のパフォーマンスの発揮の仕方にバリエーションが少ないこと、相手 DF に変化があった場合に対応するのに時間がかかりすぎたことが挙げられます。

最後に、今回の敗戦を受け入れハードな強化と向き合い、来年2月には長年の借りを返したいと考えています。簡単な道ではありませんが、各チーム、選手たちと力を合わせて挑みたいと思います。関係各位には今まで同様ご支援ご声援いただきますようお願い申し上げます。

戦　評

女子

日本対韓国　32 － 27（16 － 12）

韓国のメンバーは、北京オリンピック銅メダルメンバー５人に、20 歳前後の若手を配した構成となった。特に北京オリンピック得点ランキング４位にランクされた、ムン・ミルヒ、ゴールキーパーランキングで５位にランクされたイ・ミンヒ、世界選手権で 28 得点を挙げているキム・オナのプレーが注目されるところである。

一方、日本は、谷口など海外組を除いた国内リーグ組でのメンバー構成で、高橋、横嶋など新メンバーが加わった。

日本のスローオフで試合開始。韓国は３－２－１のディフェンス。日本は一線ディフェンスで、攻撃は巻に代わって藤井が入るといった布陣でのスタートであった。立ち上がり、レフェリーは、効果的にイエローカードを使ったり、スローの位置を正すなど、丁寧なレフェリングでゲームをコントロールしていたことが目立った。

先手は７ｍスローで韓国が取ったが、日本もすかさず、３連取で３対１と先手を奪い返した。しかし韓国も７分過ぎから北京代表キム・オナのカットインプレーなどで応酬、前半 20 分には、９対９と互角の展開となった。ここから、日本は植垣のカットイン・速攻・ロングと多彩な活躍で、14 対 10 と韓国をリードする。韓国も踏ん張り、立て続けに７ｍスローを獲得するが、日本は飛田がファインセーブを連発、韓国に得点を与えなかった。そして、前半終了直前、藤井から東濱に渡るスカイプレーを見事に決めて、16 対 12 で折り返した。

後半に入ると、韓国は一線ディフェンスでのスタート。逆に日本は、植垣、東濱のロングシュートを中心に着々と加点した。８分ごろには、日本リーグシュート率１位の横嶋を投入、すぐさま得点を挙げた。続いて樋口も投入されたが、これもすぐさま得点を挙げるなど、黄監督の采配も光った。その後も植垣、藤井、東濱で着実に加点。韓国もユ・ヒンジ、若手のイ・スルキで踏ん張るも、25 分過ぎには 31 対 23 と試合の大勢を決めた。終盤韓国も巻き返しを図ったが、32 対 27 で日本の快勝となった。

韓国は、国内事情でこの試合にかける準備が足りなかったということもあるが、黄監督としては、「チームとして戦う姿勢が出せたことが一番の収穫」と手ごたえを掴んでいた。北京オリンピック５人を含む韓国を相手に、若手の台頭もあった試合でもあり、今後の女子代表に期待の持てる１戦となった。

男子

日本対韓国　27 － 36（8 － 18）

韓国は、北京オリンピック８位入賞のメンバー６人を中心に、海外組を除いた手堅いメンバー構成であった。特に、オリンピックでも活躍したポストのペク・ジュンギュは、190 cm、100 kg とヨーロッパ勢にも引けを取らない体格を持っており、この選手を如何に抑えるかが試合のポイントとなると思われた。一方日本は、宮崎大輔のヨーロッパ挑戦や東アジアクラブ選手権の影響もあり、若手中心のメンバー構成となった。

韓国の３－２－１ディフェンス隊形に対し、日本は一線ディフェンスでの立ち上がりであった。韓国は世界選手権ベスト８のメンバー７人を加えたチーム構成であったが、日本は若手中心のメンバー構成。このためか韓国は序盤外からのシュートで様子を伺う出だしであった。一方、日本は果敢に攻めるもミスを連発。５分過ぎ、韓国はポストに落として初得点、試合が動き始めた。日本もすぐさま岸川のカットインで反撃に転じた。ここからは、両チーム持ち味を出し一進一退の展開。15 分過ぎで８対８の同点であったが、流れはここから変わった。このあたりから日本はミスを連発し、これを韓国が速攻に持ち込み５連続得点。たまらず酒巻監督はチームタイムアウトを取るが、流れは変わらず、その後も韓国は着々と得点を重ねていき、結局９対 18 で前半を折り返すことになった。

後半立ち上がりから、日本は前田を投入した。開始早々、韓国のミスから速攻で得点を挙げるが、流れは変わらなかった。韓国は、日本のミスからの速攻、ジョン・スヨンのロングやスカイプレーで着々と加点していった。日本は、韓国のディフェンスを破れず、外から打たされる展開となった。後半 18 分には、16 対 31 とこの試合最大の 15 点差をつけられてしまった。この後は、日本も韓国のミスを拾い速攻で追いすがるが、韓国もカットインプレーなどでコンスタントに加点して行き、結局 27 対 36 の９点差でタイムアップとなった。

韓国は試合終盤、ディフェンスの乱れがあり日本が得点をつめたが、全体的には攻撃のミスが点差となってしまった。特に、選手交代の瞬時に得点を与えたことは、プレーヤーの状況判断に問題があったと思われる。また、システムチェンジしたときの攻撃に課題が見られるなど、多くの課題が見えることとなった。内容的には、最終得点差以上に差のある試合となったが、若手プレーヤーの可能性を見出せたことが、収穫となった。

三流ハンドボーラーによる「すきま産業」的日韓戦レポート

ここでは恐れ多くも、5月6日の日韓戦に足を運ぶことができなかったファンのために、本誌の他の記事や商業誌では報じられないであろう側面につき書かせていただく。

知られざる? 試合会場の様子

開場30分前から会場前には人だかりができていた。見たところ学校の制服あるいはクラブジャージ姿の中高生が多い。年齢層は総じて低いように感じられた。

日本人用と韓国人用とに分かれた入口から建物に入ると、正面にU 20ラグビー世界選手権の宣伝用ブースが設置されていた。訪れるとビラ数種を受け取ることができた。プレーオフに引き続きオリンピック・パラリンピック招致活動用のスペースも設けられており、例によってフラッグに応援メッセージを書き込むとピンバッジがもらえた。もちろんハンドボール関連商品販売用の出店もある。携帯クリーナーなどお馴染みの商品に加え、今回は国際試合ということで、代表ユニフォーム仕様のTシャツやマフラータオル、応援用日章旗も販売されていた。場内放送でグッズ販売が行われている旨たびたび告知されていた。店員さんは混雑していたにも関わらず快活かつスピーディかつ正確に対応していた。グッズ購入もスポーツ観戦の面白みの一つとされている。場内の「接客」が行われる場面全てでこういった気持の良い対応が見られるようになれば、ハンドボールそのもののイメージ向上につながりそうな気がする。

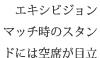
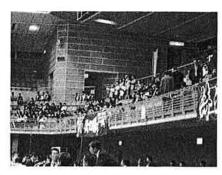
国際試合らしくスタンドには代表を応援する横断幕が下げられていた。至る所に「JAPAN」の文字が入った青い旗や日章旗、太極旗が見られた。ベンチに対面するスタンドでは日本リーグ某チーム応援団長が応援協力の呼びかけを行っていた。

芸能人女子フットサルエキシビジョンマッチの開始時間が迫ってきたが、スタンドを見渡すと空席が目立つ。韓国側応援席はほぼ無人であった。試合開始前から、芸能人チームの応援団が野太い声援を送っていた。ハーフタイムにも応援団は会場を盛り上げんと声を張り上げ続け、ついにはその他ハンドボールファンが手拍子で応じるに至った。

フットサルの試合が終わり、しばしの空き時間を迎える。この間、オーロラビジョンにはオリンピック招致用映像、U 20ラグビー世界選手権のコマーシャルが流されていた。この頃になるとスタンドの大部分が埋まっていた。青い服を着たファンはそう多くなかったが、韓国サポーターはほぼ全員赤いシャツを着用していた。赤く染まったスタンド。はためく日章旗。いつぞやの代々木体育館を思い起こさせた。

やがてハンドボール日韓戦が始まり、終わった。試合結果は周知の通り、経過は別掲を参照されたい。

あっぱれフットサル応援団の心意気

この日目についたのは、女子芸能人フットサルチーム応援団の奮闘ぶりである。

エキシビジョンマッチ時のスタンドには空席が目立った。そのことがこの一戦に対するファンの関心の程度を表していたようにも思える。試合自体についても、一国を代表するチームが激突する国際試合に比べ見応えはどうしても劣る。場内実況・解説を配するもいまひとつ盛り上がりに欠けるなか、十人ほどの応援団は力強い声援を送り続けた。やがて彼らは会場内の他のファンを巻き込むことに成功した。その心意気には脱帽である。

一般に、ファンの盛り上がりは選手のパフォーマンスの向上につながり、また、非日常的空間を作出する上での重要な要素の一つとされている。この観点から、フットサルチーム応援団の果たした役割は大きいと言える。ハンドボールファンも彼らに負けてはいられまい。

スポーツは一つ

この日はハンドボールのみならずフットサルの試合も催された。会場内ではオリンピック・パラリンピック招致活動が行われ、U 20ラグビー世界選手権の宣伝も行われていた。ひしめくブースを見やりつつ、日本ハンドボールリーグ機構の家永昌樹氏は、「スポーツ全体で協力し合い、互いに盛り上げていこうという試みだと理解している」と語った。

百年に一度とも称される世界的不況。古豪Hondaも日本リーグから撤退する。

スポーツはお荷物に過ぎないのだろうか?

いやそんなことは断じてない、スポーツなるものが一丸となってその価値を社会に訴えていくのだ。そんな気概をこの日のとどろきアリーナから感じ取った筆者は頭を冷やした方がよいのだろうか。

小林弘樹(編集委員)

市原副会長：JOC専務理事に就任

「日本オリンピック委員会」（JOC）は4月8日の理事会で2009、10年度の執行部を決め、市原則之日本ハンドボール協会副会長が専務理事に就任されました。

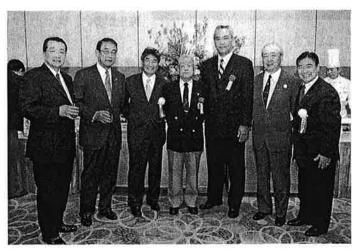
市原副会長は、日本代表選手として1962年の第1回世界選手権出場などで活躍した日本のトッププレーヤーでもあります。更に、1983年には全日本監督に就任し、選手の自主性を育てる指導法で、韓国に勝ち「ロサンゼルスオリンピックアジア予選」を突破しました。「ロサンゼルスオリンピック」のあった1984年5月、全日本を率いて当時の世界王者・ユーゴスラビア代表との代々木第一体育館での試合は、二日間共、満員となる1万人の観客を集めたこともありました。

現在は、（財）日本ハンドボール協会副会長（日本ハンドボールリーグ機構会長）、日本トップリーグ連携機構（会長・森喜朗）専務理事等の要職にあり、正に日本スポーツ界のリーダーの1人であります。

この度のJOC専務理事就任に付きましては、ハンドボール界としても大変喜ばしいことであり、益々のご活躍を祈念する次第であります。

ミズノスポーツメントール賞受賞

（財）日本ハンドボール協会常務理事・蒲生晴明氏（中部大学ハンドボール部監督）並びに、西川勤也氏（愛知県体育協会、元愛知県ハンドボール協会参与）が、第19回ミズノスポーツメントール賞を受賞されました。

（財）ミズノスポーツ振興会及び（財）ミズノ国際スポーツ交流財団では、（財）日本体育協会、（財）日本オリンピック委員会と共催で、1990年度より「ミズノスポーツメントール賞」を制定しています。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

左から、川上専務、市原副会長、水野明人ミズノ㈱社長、西川勤也氏、蒲生常務、渡邊会長、水野正人ミズノ㈱会長

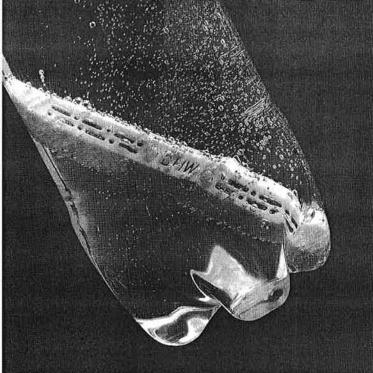
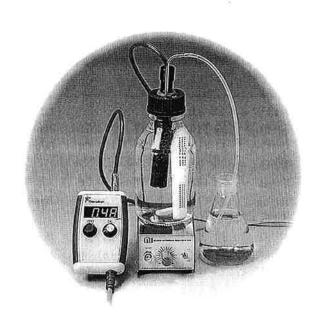
各々の方の受賞理由は以下の通りです：

●蒲生 晴明（がもう　せいめい）氏　54歳（中部大学ハンドボール部監督）

選手としてモントリオール、モスクワ、ロサンゼルスの代表に選出。大同特殊鋼では、選手、プレイングマネージャー、監督、総監督を歴任、その指導力から全日本コーチ・監督に抜擢され、'95世界選手権出場、アジア大会銀メダル等の成績をあげた。監督退任後は、一貫指導システム（ナショナルトレーニングシステム）を構築、平成12年よりスタートさせ、現在の強化体制を築いた。JOCや文科省の競技者育成・指導者育成の各委員も歴任し今に至っている。指導している主な選手・チーム（大同特殊鋼、全日本にて指導）酒巻清治、中山剛、橋本行弘、岩本真典　他多数。

●西川 勤也（にしかわ　きんや）氏　78歳（愛知県体育協会、元愛知県ハンドボール協会参与）

中学校の教員であった同氏は、名古屋市立の中学校においてハンドボール部の顧問となり、ハンドボールの指導を永年続け、愛知県のハンドボール競技の普及及び発展に尽力した。その一方で、昭和44年に自らが中心となって「正色スポーツ少年団」を設立し、正色スポーツ少年団代表及び指導者として、永年にわたり地域における青少年の健全な育成に貢献している。同氏は、ハンドボール競技の指導の他、愛知県スポーツ少年団副本部長、スポーツ指導者協議会会長として、愛知県スポーツ少年団組織の充実と指導者の資質向上に大きく貢献をしている。愛知県スポーツ少年団発足当初より78歳の現在まで、愛知県スポーツ少年団の牽引者として子どもの体力向上、地域の子育てを提唱し実践し続けたことは、特筆すべきものがある。

健康は毎日の飲料水から…

※本製品は改良のため予告なく仕様・デザインを変更する場合があります。

500mlのお水にドクター・水素水スティック１本を投入。
約120分後、水温21度における容存水素量0.48ppm。（当社測定値）

日本医学交流協会医療団
（ＮＰＯ認証 東京都）

当商品は認定を受けています。
http://www.drp.ne.jp/で認定確認できます。

特許公開番号：2004-41949
韓国特許登録：529006号
米国特許番号：7189330

原材料／金属マグネシウム、天然石
サイズ／19×132mm

価格／1箱4本入り 13,440円(税込み)

株式会社フレンディア

〒107-0062東京都港区南青山5-10-13 デコパージュ南青山4F
TEL:03-5948-5011 FAX:03-5948-5263

フリーダイヤル 0120-372-132（みんなに いーみず）

株式会社フレンディアのウェブサイトを併せてご覧ください。

http://www.dr-suisosui.com

第6回東アジアハンドボールクラブ選手権

［主　催］東アジアハンドボール連盟
［期　日］2009年4月25日（土）～29日（水）
［開催地］中　国
男子：蘇州　試合会場：Gymnasium of Suzhou Sports Center
女子：常州　試合会場：Gymnasium of Changzhou Olympic Sports
［参加チーム］
日本　男子；大同特殊鋼　女子；オムロン
韓国　男子；斗山　女子；碧山建設
中国　男子；Beijing（北京），Jiangsu
　　　女子；Anhui（安徽），Shandong，Jiangsu

■試合結果

【男子】

第1日：4／25（土）

斗　山	33（16－10，17－ 9）19	Jiangsu
大同特殊鋼	34（13－21，21－13）34	Beijing

第2日：4／26（日）

斗　山	32（14－11，18－15）26	大同特殊鋼
Beijing	27（15－12，12－15）27	Jiangsu

第4日：4／28（火）

斗　山	33（16－ 8，17－11）19	Beijing
大同特殊鋼	31（14－12，17－18）30	Jiangsu

【女子】

第1日：4／25（土）

Jiangsu	31（18－12，13－15）27	オムロン
Anhui	31（14－15，17－10）25	Shandong

第2日：4／26（日）

オムロン	41（19－19，22－13）32	Shandong
碧山建設	38（18－ 8，20－13）21	Jiangsu

第3日：4／27（月）

碧山建設	37（21－15，16－12）27	Shandong
オムロン	36（21－19，15－14）33	Anhui

第4日：4／28（火）

Anhui	31（17－12，14－13）25	Jiangsu
碧山建設	35（17－14，18－10）24	オムロン

第5日：4／29（水）

Jiangsu	33（15－15，18－ 9）24	Shandong
碧山建設	32（14－14，18－10）24	Anhui

東アジアハンドボール選手権を終えて

大同特殊鋼ハンドボール部監督　清水 博之

3月の日本リーグプレーオフV4を達成し、4月24日から中国で開催された東アジアクラブ選手権に出場してきました。大同フェニックスの目指すべきテーマは「世界に通用するハンドボールチームを創る」ことであり、この大会には私を含め選手一同いろんな想いを込めて臨んだ大会でもありました。今回で4回目の出場でありますが、未だ韓国チームに勝ったことがありません。世界選手権やオリンピックに日本が出場するためにも、この大会で韓国チームに勝つことが第一歩だと考えていました。韓国（斗山）チームは、多くの代表選手やユン・キョン・シン選手、大崎電気プレーしていた豊田選手もいるドリームチームです。日本リーグ・国の代表としての自覚と責任を果たすべく、チーム一丸で優勝目指して頑張ってまいりました。

初日の中国（北京）戦、いきなり前半から大型GKにシュートを止められ、バックプレーヤーには高打点からのロングシュートを叩きこまれ、アウェーという独特な雰囲気に選手の動きは堅く前半終了13対21（8点差）、非常に苦しい出だしとなりました。後半はプレスDFからFBと本来のスタイルを取り戻し一時は逆転までいきましたが、残り4秒でフリースローから押し込まれ引き分けとなってしまいました。

第二戦の韓国（斗山）戦、スタートで4～5点離され、これまた苦しい展開となりましたが、全選手の頑張りで3点差で折り返し、後半は両チーム一歩も引かない戦いで2～3点差のまま残り5分、逆転できるチャンスはありましたが、決定打をミスしてしまい、最後はユン選手に連続で叩きこまれ試合終了となりました。

最終戦は負ければ最下位といったプレッシャーがあったものの、ベテランから若手までが奮起し何とか2位という結果で終えることができました。

大会を通じ感じたことは、韓国チームに負けはしたものの、

これまで積み上げてきたことは十分通用したということ。個人の技術レベルではまだ差がありますが、戦術、チームワーク、スピード、スタミナなどでは勝っていたところもありました。中国チームは１年間で大きく力がついたと感じました。北京オリンピックの強化がそのまま継続していると考えます。選手は２ｍクラスが３〜４人おり、技術面ではあまり評価はできませんが、高さとパワーを活かした戦術は今後日本の脅威となると感じました。

日本チームの代表として結果をだす（優勝する）ことが出来ず、ご声援いただいた方々に申し訳ない気持ちでいっぱいであります。09 年度こそは、東アジアの壁を突破できるよう選手一同トレーニングに励み、韓国の個人技、中国の高さとパワーに負けないものを築き上ていきます。

最後になりますが、大会運営の準備や調整、会場まで足を運びご声援くださった協会関係者、現地でお世話になった通訳の方、多くの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

東アジアクラブ選手権について

オムロンヘッドコーチ　黄　慶泳

今回中国の常州で開催となった東アジアクラブ選手権にオムロンが日本代表として出場、各国を代表するチームと戦えたことはチームにとって大変素晴らしい経験になったと感じます。関係者の皆様には、オムロンがこの大会に出場するに当たって、ご尽力頂きました事に対して大変感謝しております。改めてお礼を申し上げます。

＃大会の準備

日本リーグが終わってから新チームとなり、主力選手の引退と移籍もある状況の中で不安を抱えながら大会に臨むことになりましたが、新しい可能性を見つける良いチャンスでもありました。

＃大会の戦評

第１戦：オムロン対 Jiangsu（中国）

高さがある中国チームに対抗するには機動力が必要だと意思統一をして試合に入った。しかし、足が動かず高さを利用したミドルシュートと速攻などを守り切れず、前半 10 分過ぎて１対6とリードされてしまう展開となった。その後は点の取り合いとなり、その点差のままシーソーゲームの展開で前半を 12 対 18 で折り返す。

後半立ち上がりからはようやく足が動き始めて積極的な守りから速攻が繋がり、６連続得点で後半 10 分まで 18 対 18 追い付くことが出来た。しかし、その後またもや人とボールがまったく動かず後半中盤から再び突き放される展開となって、最後まで修正出来ず 27 対 31 でタイムアップ。

前半立ち上がりの戦い方と追いついた後に勝ち切れなかったことは大きな反省点を残した試合であった。

第２戦：オムロン対 Shandong（中国）

前日の試合で出た課題である前半の立ち上がりの戦い方と交代選手の役割と戦術の変化などについて確認し、自分たちのハンドボールをもう一回確認して試合に入った。

前半立ち上がりから主導権を握ってスタートはしたが、最後の詰めが甘くなって失点が多く、点の取り合いのハイテンポのゲームとなって前半を 19 対 19 で折り返す。

後半は GK の好守から守って速攻の展開と交代して入ったメンバーの活躍もあり、42 対 32 でこの大会初白星を得ることが出来た。

全員が同じ方向に向かって戦い続けたことと交代選手の活躍が今後に繋がる大きな収穫であった。

第３戦：オムロン対 Anhui（中国）

攻撃の点は取れているが失点が多いので、その修正点を確認して試合に入る。しかし、相手の PV プレーとミドルシュートを守り切れず、点の取り合いとなって前半を 21 対 19 と２点リードして折り返す。

後半になって中盤５点差開いたところで、相手が洪選手にマンマークを付けて展開を遮断する作戦に出る。そこから攻撃の戸惑いもあって苦しい時間帯もあったが、何とか粘って 36 対 33 で勝ち、韓国戦に優勝の望みを繋ぐ事となった。

第４戦：オムロン対碧山建設（韓国）

今日勝ったら優勝もある大事な一戦であるが、冷静に自分たちのチームスタイルで試合を運ぶことと個々の役割を確認し、利き腕への徹底したマークと相手の交代メンバーの隙を徹底して速攻で狙うことなどを対策として意思統一して試合に入る。

前半立ち上がりから攻撃ミスから逆速攻で又も１対５とリードされる展開となる。すかさずタイムアウトを取りリズムを切ってから連続得点で一点差まで追い上げる。その後は点の取り合いなり前半を 14 対 17 と３点ビハインドで折り返す。

守りの約束事とポストの使い方を意思統一して後半戦に向かったが、立ち上がりのミスが続き、突き放されてしまう展開となる。後半 20 分過ぎまでには４、５点差のビハインドのまま終盤戦に向かったが、焦りから逆速攻の失点が続いて終わってみれば 24 対 35 と大差でゲームオーバー。

＃結果と今後の取り組み

結果としては２勝２敗と３位で不甲斐無い結果で終わりましたが、チームにとっては色々な意味でよい経験になったと思いますし、立て直さなければいけない部分を多く見付けた大会でもありました。

韓国の１対１の強さはまだ健在で、中国は高さだけではなくて機動力もあり、特に守りのアグレッシブさには驚きました。全体的にレベルが上がっている印象が強くて隣国に対する危機感も新たに覚えて帰って来ました。

この大会で得た課題と収穫、そして経験を糧に厳しい戦いになるとは思いますが、今年の日本リーグでの優勝を目指して新たな気持ちで頑張りたいと思っていますので、引き続き皆様方のご声援の程宜しくお願い申し上げます。

～ロンドン2012の強化策～

企画・広報委員
早川　文司

ロンドンオリンピック2012を目指す日本サッカー協会が新たな取り組みを始めた。「U－20ジャパンズエイト」と名付けたプロジェクト。

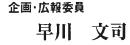
所属クラブで出場機会の少ない選手、より多くの実戦経験を積ませたいとクラブが望む選手を対象にした「８人制」の大会だ。試合時間を短く、ピッチも通常より少し小さくして、攻守の早い切り替え、シュート意識の向上、ゴール前の攻防の増加などを狙いとしている。

また、同年代を集めることによって、競争意識を高める環境を創り出すこともうたっている。

こうした取り組みによって、個々のレベルアップを図り、各クラブの選手層の厚さ、さらには日本代表の戦力を上げることにつないでいきたい大きな目標を掲げる。

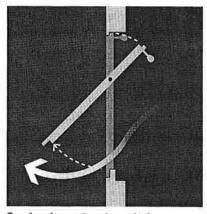
個々がレベルアップするには、本人の取り組む姿勢はもちろん大切だが、同じ年代と競い合うことによって、互いに切磋琢磨することも重要な要素である。

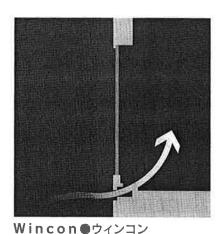
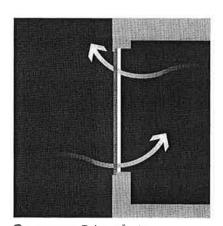
期待された北京オリンピックの敗退が、こうした試みを生み出したともいえるが、次々と新しいプロジェクトを創造するアイデアは、他の競技と比較して、一歩先んじていると言っていいだろう。

ましてやハンドボール界はオリンピックから見離されて久しいのはご存じの通りである。男子は1988年ソウル大会以後５大会、女子は1976年のモントリオール大会以来実に８大会も出場していない。

こうした状況の打破には多くの関係者がいろいろ手を尽くしているが、まさに“夢”の実現にはいたっていない。

トップの強化は欠かせないが、先を見据えての若年層の強化も欠かせない。そのためにはサッカーのようにもっと各カテゴリーの強化合宿を行うなどが必要ではないだろうか。年代ごとに競わせ、切磋琢磨させ、競争心をあおることによって、戦う精神力を充実させることも出来るだろう。

「オリンピックの壁」は厚いが、ひとつ破ることにより大きな穴が開くはずだ。どう穴を開けるかが課題だが、そこは現在のトップの力に頼るしかあるまい。しかし、その後を考えた場合、若年層の戦力アップも並行してやるべきである。若い年齢層から押し上げるムードが生まれてくれば、トップの選手も一時たりとも気が抜けない状況が生まれることは間違いない。

なんとしても「ロンドンへ」は、すべての関係者の熱いハートを結集するしかない。

呼吸する建築

Swindow●スウィンドウ
わずかな風圧も捉えて自然に開閉し、室内外の温度差で効率の良い換気が行えるバランス式逆流防止窓。

Wincon●ウィンコン
内蔵の調節弁により、風の強弱に影響を受けにくく、定風量で換気が行えるヨコ型定風量換気スリット。

Cavcon●キャブコン
内蔵の調節弁により、強風時でも一定の風量で換気ができ、無風時でも内外の温度差による重力換気が行えるタテ型定風量換気スリット。

NAV WINDOW 21

「呼吸する建築」。それは人が呼吸をするように
建築が自然に空気を取り入れ、建物内部の空気を新鮮に保ち
不要なものを排出するシステムを持つことです。
自然換気システム＝NAV WINDOW 21は
これまでの建築の機械空調と共存し
建物を取り囲む風を読み、建物内に風の道を作りそれを状況の変化に
あわせて制御する画期的な換気システムです。

三協立山アルミ株式会社
東京本社／〒164-8503 東京都中野区中央1-38-1
住友中野坂上ビル20F〈環境商品部〉 TEL (03) 5348-0367
インターネットホームページ http://buildingsash.net/

500号記念座談会 その2

協会・機関誌も前回5月号にて500号の歴史を迎えることになりました。そこで、500号記念企画の一つとして、これまでに機関誌編集活動にご尽力戴きました諸先輩各位にお集まり戴き、当時を振り返り様々なお話を伺う事と致しました。

ご出席いただきましたのは、

杉山茂様、藤本強様、
平岡秀雄様、川上整司様、
植村繁様（編集に携わった年代順）
の方々です。

機関誌編集委員会からは、近久紀人、川村浩一、小林弘樹が同席しました。5月号に引き続き、500号記念座談会を掲載いたします。

前列：左から、杉山氏、藤本氏、植村氏、後列：左から、小林、川上氏、近久、平岡氏

機関誌に載せる記録と、協会として保存すべき記録

近久：それでは、今後の機関誌発行の活動に対して、ご意見・ご提言など伺えればと存じます。

杉山：委員の皆さん方に負担を掛けるかもしれないけれども、機関誌専門委員会が日本ハンドボール協会の「記録センター化」することを期待しています。今はインターネット委員会がありますが、紙媒体としての資料力・歴史性・記録の詳報などの役割は依然大きいと思います。

川村：「記録センター」の視点で見れば、私は東京都の競技委員長もやっていましたが、日本協会の公式記録用紙は四連になっていまして、一枚が大会主催側、もう一枚が日本協会用です。試合終了後の記録を、都道府県協会が一部は自分たちのところに残して、後の一部を日本協会に送るという事になっていますが、関東ブロックや全国大会以外では、行われているのが少ないのではという感じがしています。

杉山：日本協会に登録していないチームの活動は、報告しにくいという面が以前からあります。同好の士が一日も練習をしないで試合の日だけ集まってハンドボールをやる。それにも日本協会登録料が必要なのかどうかという日本協会の未来永劫の課題が絡みます。

それよりもこのごろは、全日本の試合結果の個人記録は得点者だけしか出ないんですよ。ゴールキーパーや、その日非常に良いディフェンスをした選手は0点だから名前が載らない。少なくとも全日本の試合結果では誰かがきちんと記録を集める事が必要です。そういうことになっていかないと、機関誌をPDF化していく意味がないですよね。記録の大切さを改めて認識して欲しいものです。

杉山茂氏

平岡：杉山さんが言われたように、機関誌に載せるための情報と、協会として保存すべき情報がある。だから協会として保存すべきものは、あらゆる大会から集めるような方法がひとつ必要じゃないかと思いますね。

あと、最近の全日本のことになりますが、私は2003年の東アジア大会の時から、ナショナルチームの活動を分析するための班を作り、毎年テクニカルレポートの提出を義務づけるよう提案し実現しました。データを整理するのに一か月くらいかかるのですけれどもね。試合の全データが分析班に届

平岡秀雄氏

くようにして、ビデオもJISSの協力を得て管理されています。だから2003年からは試合のVTRが残っているはずです。私が選手のときはビデオデッキではなくオープンリールで、遠征するときテレビは14インチのテレビを選手が持って歩いていましてね。それで保存したはずですけれども、ハンドボール協会にはその記録が残っていません。

杉山：ここらは機関誌の今後の問題ですよ。要するに、ともかく、日本協会には全て報告しようということが徹底されて、その徹底された材料の中から、「これは機関誌に取り上げよう」というのが出てくる。それは機関誌の編集権と編集感覚の問題ですよね。

近久：今は地方の大会情報は集まっておりません、又誌面の量の制限からも基本的には載せられないのが実情です。但し、日本協会主催の試合は、全て掲載できるように心掛けています。

杉山：記録の保存っていうのは、機関誌に縋るしかありません。「自分がハンドボールのプレーヤーのときに活字になったのは機関誌だけだ」と言う人に出会うとホッとします。いまは新聞がいわゆるテーブルというのを載せなくなった時代だから、機関誌かスポーツイベント誌を見ないと分からない。又、機関誌の内容に関して何と言っても面白くないのは、焦点がぼけていて、何を書いているのか分からないものがあるからです。例えばインターハイの回顧、「地元の皆さんのご苦労に感謝する」という文言は要りません。洛北高校が、何で強いのか、というようなものをリポートするということが回顧原稿の軸でしょう。

機関誌はもっと批判にさらされたっていい

杉山：故北村さんとはものすごく話したことがあるんですよ。機関誌の理事会便りに、「資料を元に説明」って書いてあるわけですよ、「資料を元に」の資料が活字化されていないのに。彼もそのことは分かってくれましたが…。審判界のことで言えば、「日本ではなぜ女性レフリーが育たないのか」とか、そういうようなテーマを与えて書いてもらいたいです。「世界を奪い返す」も結構な話だと思いますが、世界を奪い返すためにはこの二年間、180センチ以下の選手は選抜しないと書いてればすごく読む気になる。何が「世界を奪い返す」のかと、機関誌はそういうリードをしていくべきだと思います。前号でも紹介されていますが、昔は日本代表をかなり解剖して、常に全日本のことを書いていたんですよね。ところが、「これを書くと韓国に情報が筒抜けになる」というようなことを言われまして…。藤本さんが、「そんな小さい了見で雑誌を作っているんじゃない」と反発して書いた。70年代半ばくらいに実連系の人が「非常にハンドボール協会の機関誌は体制的だ」と言ったときがあります。機関誌が体制的だと言われるのは当り前で、機関誌に何を求められるかと言ったら、内側の発信しかないわけです。その流れの中での批判はあっていいのですが。

川上：ナショナルの記録も大事ですが、もっと大事なのはジュニアとユース。それで韓国の選手がどうやって伸びていったのかということが分かるわけですよ。高校の日韓親善は非常に大事なんですよ。

杉山：まさしくそうで、中国に王沙沙（shasha wang）が居て、2003年9月神戸のアテネ五輪アジア予選で日本が負けたときに、みんなびっくりするわけです。「すごい16歳だ」って。実はあの前年、日中ジュニア交流で来ているんですが、その子が16歳で代表チームに選ばれて神戸に来たわけです。

川上：ナショナルの監督がその試合を見なきゃいかんですよね。

杉山：機関誌もその非凡さをリポートしなければいけない。

平岡：ナショナルのスタッフの人たちに報告を頼むときに、何か書いてくれって言っても報告書は出ませんでした。でも、例えば、「試合に際してどのようなことに注意しましたか」等のテーマを決めれば、何人かは書いてくれる。集まって来るとね、1ページくらいにはなりました。

杉山：あの「オリンピック再予選」の後、「スポーツ仲裁裁判所」（CAS；本部はスイスのローザンヌ）の模様はほとんど原稿になっていない。「スポーツ仲裁裁判所」に召集された人は、日本の現役の選手では、ハンドボールに限らず稀な体験のはずです。スポーツイベント誌も現地発では書かないです。「スポーツ仲裁裁判所」に行ってどうなったんだろうということに日本中の注目だった訳ですし…。ハンドボール関係者は興味を持たないのかなと思います。これは、行った者にしか書けないことです。機関誌というのは、あの事件はもっと大胆に切り込んでいい。「スポーツ仲裁裁判所」の裁定全文の翻訳の掲載も本来欠かせない。今からでもいいですよ。

日本のハンドボールに憧れと誇りと強さを

近久：では最後になりましたが、日本協会の運営全般ということでお伺いいたします。今まででも触れて戴いておりますが…。

杉山：憧れと誇りと強さをもっと日本協会に強く持って欲しい。もうそれだけしかない。僕はもともとオリンピック至上

藤本強氏

主義です。オリンピックで勝てなかったら日本のハンドボールは潰れるとさえ思いますから。「普及が大事だ」って言うのは10年、20年前ですよ。普及は、県市町村レベルのテーマです。今のままじゃ絶対に上が強くならない。

藤本：我々がやっていたころの課題が相変わらず日本協会全般に残っていないかなあ。いま杉山さんがおっしゃった、トップを強くしてそこに集まる選手に期待するのか。それはやっぱり非常に大きな課題じゃないかと思います。

平岡：例えばオリンピックの予選に負けたとか、そういうときにはまず原因をきちっと分析する必要があると思います。私もアテネ予選に関わっていましたが、負けた次の日に次回大会の話題となるのに違和感を覚えたことがあります。一見前向きのようなんですが、それは前向きじゃなくて、その前にやらないと駄目なことがあるような気がしました。簡単なことじゃないとは思いますが…。今後のナショナルチームを考える上で、まず原因を分析する必要があると思います。

杉山：今度の世界選手権、韓国男子は北京の代表を六人しか残してないからね。そういうような、世界選手権を捨てるということが、日本はできませんね。韓国はオリンピックに出なかったら意味がない。その間に行われる二回の世界選手権はオリンピックへの予備だという姿勢を徹底しましたね。国際的には非常に批判のある姿勢だけども、それはすごいことですよ。そこでまたキャリアの差が出てくるからね。そうこうしているうちにロンドンを迎える。

川上：色々な面で反省しなければならないと思う。それには他のスポーツ界と同様に地道な努力が必要だと思います。大会を開催するには、夫々事情があると思うが。大会が無事に終わる事だけでなく、他の人気スポーツに近づく為に盛り上がりが必要で、特に高校の選抜大会なんかもっと変えられると思う。

川上整司氏

例えば、駒沢に定着させるとか、今、国内に大きいボールゲームは7種類あり、その中でテレビ放映の無い種目はハンドボールと水球だけで、5競技がテレビ放映されています。回り持ちではテレビ中継を望んでも無理だと思います。高校で強化しなければ強い全日本は創れない。それには魅力有る大会からではないでしょうか。そこら辺りから改革する事が先決だと思います。

植村繁氏

植村：皆さんのお話と全然違う方向で。この経済状態の非常に厳しいときに、機関誌で、ただ観念的に財政が大変だというお話はしばしば出てきますが、具体的な話は一切載って来ない。10万人会ですか、ただ入った人の名前が出ている。発表してまずい部分もあるかもしれません。ただ、もう少し具体的な情報を流して皆さんの協力を促すということも必要なんじゃないかなという風に思います。

「機関誌をもっと大事に」

杉山：各種の委員会活動からの具体的な資料・材料の提供は必要です。それと、日本協会の機関誌発行の締め切りに合わせて行動を起こすようなことをしないと駄目ですよ。先日のビーチの選手の公募は誰も知らないうちに終わってしまった。「機関誌の締め切り何時？」っていう発想が理事会になかったら何もできないのではないでしょうか。日本リーグも、プレーオフの前売り券は何時から売るんだ、機関誌は一体いつ締め切りなんだ、という意識がなかったから全部後追になります。「これから」っていう情報が一つもない。機関誌はやはり、一ページ目には常に大変なお知らせが欲しいです。

例えば、4月号のトップが、「5月6日に川崎で日韓定期戦」っていうのが機関誌では…。先行情報がないわけです。藤本さんと僕は印刷屋さんを泣かせて、機関誌が第一報というのもたくさんあったんですよ。ただ、そんなことを求めたら機関誌の人間は常駐しなけりゃならない。役員や事務局の機関誌への“思いやり”が必要です。

川上：機関誌専門委員が常務理事会に出てないわけです。情報の収集では難しい所があります。「大事な部分ですから機関誌担当理事を一人置いたらどうですか」と提言しています。

藤本：やっぱり、常務理事会には出ていないと情報は集まりませんね。

杉山：皆が待っているのはインターハイ、国体やインカレの組み合わせのような先行情報です。終わった後のことなんて皆知っていますよ。藤本さんは「機関誌を大事にしろ」って常に大声を出していた。中東の笛も、荒川さん（元日本協会理事長）が機関誌のためにクウェート戦のビデオテープをク

ウェートから持ってきてくれて、僕らが「ビデオテープ観戦記」というものを書いたのが最初ですね。多くの人に、「機関誌のために」と思うムードが生まれないと…。

平岡：少なくとも常務理事として出ている人は全部情報を持っています。常務理事会のときは全部出てきますからね。どういう情報が常務理事会で披露されているのか、見られるわけですよ。提案されてきた内容は全部見られます。それを載せていいかどうかは確認をしていけば良いのではないでしょうか。

さきほど10万人会の話もされたんですけれど、私は10万人会の担当常務理事をしていたことがあるのですが、基本的にね、10万人ってね、10万人会で10万人集めているわけではありません。9万5千くらいは、ハンドボール関係者、残りの3千人をどうやって増やそうかという話をしていました。いま現在全国で各ランクの会員数を集計したものが出てきています。情報自体は全部とってあります。

杉山：それは現役の専門委員会の領分だね。

平岡：データが来ない部分はしょうがないですけれども、少なくとも協会には結構データがあります。

植村：技術的なことは別として、皆が見て「なるほどな」と思うような流し方が必要なわけですね。

藤本：やっぱり常務理事会は出ないといけないですよ。その場の雰囲気もあるだろうし。

杉山：例えば、高校生とか中学生は個人登録されていますが、中校生の個人登録なんて機関誌一号潰しちゃってもいいくらいの特集テーマです。日本ハンドボール協会という機関が機関誌の扱いがあまりにも下手すぎると思います。残念ですが、これでは、機関誌の役割が果たせていません。

近久：戴きましたご意見の数々、同様の感が多々あります。機関誌編集の立場から見ると、機関誌をどのように利用・活用するのか今ひとつ不明確は処も感じています。大会の記録や結果だけではなく、機関誌の役割を再認識し色々な意味での「将来ビジョン」なども掲載していかなくてはならないと考えております。

近久紀人編集長

今日、皆さまから戴いた貴重なご意見を参考にして、この後600号、700号と新たな歴史を積み重ねていくことができるように頑張っていく所存であります。皆様方のご健勝と今後のご支援・ご鞭撻をお願いし、今日の座談会を終了させて戴きます。

ご出席いただきありがとうございました。

国会議員による「ハンドボール振興議員連盟」(超党派) 設立

さる5月27日(水):鶴保庸介参議院議員（日本ハンドボール協会特任副会長）ら5名の発起人により衆議院議員第一議員会館第2会議室にて、同連盟の設立総会が行われました。

同連盟は、党派を超えて国会議員に呼びかけられ、現在35名の会員構成となっています。

当日の総会には、会長の山口俊一衆議院議員を始め18名の議員、山中伸一文科省スポーツ・青少年局長、日本ハンドボール協会より市原則之副会長（JOC専務理事）を始め7名の役員が出席しました。総会では、「2012年のロンドンオリンピック本戦への出場、ひいては日本においてハンドボールを一層普及させるためにも、選手や協会への経済的な支援も含め、我々に出来る事は何かを考えていく必要がある。そのための一歩を、このハンドボール振興議員連盟を設立することにより刻みたい」とし、ハンドボールの振興、日本のスポーツの振興に最大限の助力をすることが決議されました。

同連盟の主な役員（敬称略）

最高顧問	愛知　和男
	田名部　匡省
顧　　問	中川　秀直
	鳩山　由紀夫
	白浜　一良
会　　長	山口　俊一
会長代理	浜田　靖一
副会長	野田　聖子、遠藤　利明
	今村　雅弘、石田　祝稔
	松浪　健四郎、山本　一太
	森田　高
事務局長	鶴保　庸介
事務局次長	蓮舫（れんほう）

第7回ハンドボールコーチング研究会

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

本研究会は研究会代表平岡秀雄氏（元東海大学）を中心に、2003年3月熊本県山鹿市で第1回のコーチング研究会が開催され、今年は早くも第7回を迎えました。日本ハンドボール協会の指導方法委員会が企画する「コーチシンポジウム」に併せて、夜に山鹿温泉宿の座敷で開催したのが最初です。一昨年からは日本協会参事村松誠氏（駒澤大学）の協力を得て、会場を駒澤大学に移し、日本リーグ男子プレーオフ（3月14日、15日）に併せて開催しました。また、平岡代表の大学退職に伴い、本年は研究会会員田中守氏（福岡大学）が本研究会の世話人代表となった初めての研究会となりました。

本研究会は、全国の指導者が自身の経験・知見を持ち寄り、ハンドボールの科学的な分析を通して日本ハンドボール界の発展に寄与しようとするものです。学術的な研究を中心としたものではなく、実際の現場で有用な情報を提供する機会として位置付けられています。学術的にも評価される研究の場でありたいとも考え、本研究会で発表した内容は、日本ハンドボール協会発行の「ハンドボール研究」に論文として発展させ、投稿できることになっております。

本年は発表申し込み9件となり、発表者も大学院生から大学の教員、医療関係者、一般企業の方まで幅広く、また、発表内容も動作・ゲーム分析から栄養・医学に関する内容など多岐に渡りました。

第7回コーチング研究会登録・参加会員（順不同・敬称略）

安達隆博（九州産業大学）	森瑛介（岐阜大学大学院）
市村志朗（東京理科大学）	河野公昭（やまが整形外科）
亀井明子（国立スポーツ科学センター）	清水宣雄（国際武道大学）
川上整司（日本ハンドボール協会）	角紘昭（日本ハンドボール協会）
金城一史（沖縄県ハンドボール協会）	三輪一義（琉球大学）
塩谷和雄（相模原高校）	村松誠（駒澤大学）
齋藤慎太郎（大同工業大学）	藤森徹（京大ハンドボールＯＢ会）
工藤夏子（伊藤超短波）	吉村晃（中京大学大学院）
高橋琴美（武蔵丘短期大学）	吉近充洋（広島メイプルレッズ）
上林正明（神奈川県教育委員会）	坪井雅典（知立市ハンドボール協会）
近久紀人（日本ハンドボール協会）	田中守（福岡大学）
高森賢（多治見高校）	丸井一誠（福岡大学）
下川真良（朝日大学）	平岡秀雄（前研究会世話人）
杉森弘幸（岐阜大学）	舎利弗学（学校法人福島高校）

■1日目　3月14日（土）　駒澤大学深沢キャンパス講義室

開会の辞　担当常務理事　角紘昭（日本協会）
代表挨拶　田中守（研究会世話人代表　福岡大学）
　　　　　平岡秀雄（前研究会世話人代表）
研究発表
　発表1　ハンドボールコーチング研究会の展望
　　　　　田中守（福岡大学）
　発表2　ハンドボールにおけるサイドシュートの研究
　　　　　下川真良（朝日大学）杉森弘幸（岐阜大学）
　　　　　森瑛介(岐阜大学大学院)河野公昭(やまが整形外科)
　発表3　男子U 21世代における傷害傾向に関する一考察
　　　　　河野公昭（やまが整形外科）杉森弘幸（岐阜大学）
　　　　　藪本保（あじろ診療所ひめゆり療育センター）
　　　　　下川真良（朝日大学）森瑛介（岐阜大学大学院）
　発表4　ハンドボールの投動作に関する研究
　　　　　森瑛介（岐阜大学大学院）杉森弘幸（岐阜大学）
　　　　　下川真良（朝日大学）河野公昭（やまが整形外科）
午後　プレーオフ　観戦

■2日目　3月15日（日）　駒澤大学深沢キャンパス講義室

デモンストレーション
（伊藤超短波波株式会社・日本ハンドボール協会公式サプライヤー）
研究発表
　発表5　ハンドボール競技におけるゲーム感に関する一考察
　　　　　丸井一誠　明石光史　濱口朋幸　田中守(福岡大学)
　発表6　全日本男子ハンドボール代表選手に対する栄養管理の一例
　　　　　亀井明子、海老久美子、横田由香里、辰巳和佳子、上村香久子、小松裕（国立スポーツ科学センター）.
　発表7　ハンドボール・ゴールキーパーの注視行動に関する研究
　　　　　吉村晃（中京大学大学院修士課程）
　発表8　学生トップチームの戦術プレイに関する考察（第二報）
　　　　　清水宣雄（国際武道大学）
　発表9　NTS男子優秀選手の体力測定結果
　　　　　安達隆博（九州産業大学）齋藤慎太郎（大同工業大学）白井克佳　小笠原一生（国立スポーツ科学研究所）栗山雅倫（東海大学）田中守（福岡大学）
講　評　川上整司（日本ハンドボール協会監事）
閉会の辞　村松誠（日本ハンドボール協会参事：駒澤大学）
午後　プレーオフ　観戦

平成21年度　審判部 審判審査指導委員会　年間計画

（財）日本ハンドボール協会審判部 審判審査指導委員会 委員長　越田 義昭

審査指導委員会には、以下に記すように多くの業務が託されている。その根底にある目的は、もちろん日本ハンドボール界の発展に貢献できる審判員の育成である。ハンドボール競技の普及だけでなく、アジアで、そして世界で活躍できるハンドボール競技を推進できる審判員を育成していかなければならない。このために（財）日本ハンドボール協会審判委員会では、審判員の目標と研究課題を定め、映像を盛り込んだ審判員講習会資料を毎年度作成し、その育成に力を注いでいる。残念ながら、全国大会審判員評価や公認審判員Ａ・Ｂ級審査会、レフェリーコースなどで良い評価を得られなかった審判員は、アジアや世界で活躍するために必要なプレーを正しく評価できなかった、あるいはハンドボール競技の普及に必要な資質を披露できなかった、ということになる。わが国の審判員諸氏におかれては、審判員の素養をさらに高めるべく研鑽されることを願ってやまない。

○ＪＨＡ公認審判員Ａ・Ｂ級審査会について

ハンドボールの理念に則り、競技規則に忠実で丁寧なレフェリングを行うこと（ハンドボールの概念を熟読）。プレーヤーやチーム役員、観衆に判定の基準や内容が速やかに正しく伝わるようなレフェリングを行うこと。レフェリーに必要な素養は技術のみではない。コートでの立ち姿は常にその人間性が表れる。立ち居振舞い、言葉使い（語調と内容）や担当試合以外での言動にレフェリーの人間性が表れる。各テストの点数だけでなく、大会期間中の言動も含め、総合的に評価を行う。

Ａ級合格ライン…ルールテスト 88 点。実技テスト 65 点。ヨーヨーテスト男子８回・女子５回。Ｂ級合格ライン…ルールテスト 80 点。実技テスト 55 点。

日程は下記の通り。

ＪＨＡ公認審判員Ａ級審査会

大会：東地区全国クラブ選手権大会
期日：７月 24 日（金）～ 26 日（日）
場所：福島県本宮市　　受験者 32 名

ＪＨＡ公認審判員Ｂ級審査会

【北地区】受験者 11 名
【東地区】受験者 18 名
【中地区】受験者 17 名
【西地区】受験者 13 名

○ＪＨＡレフェリーコース研修会（前期・後期研修会）「Ｂ級資格取得審査」

将来のＩＨＦ・ＡＨＦレフェリー育成を目的とする。

受講資格年齢は 16 歳～ 22 歳である。ある程度のレフェリング技術を有し、かつルールを理解している人で、各ブロック協会審判長の推薦を受けた人を対象とする。審査指導委員会の評価結果に基づき、日本協会より公認審判員Ｂ級登録の資格が与えられる。審査基準はＪＨＡ公認審判員Ａ・Ｂ級審査会に準ずる。

【前期研修会】

大会：高校生ハンドボール長浜大会
期日：８月 15 日（土）～ 17 日（月）
場所：滋賀県長浜市・彦根市

【後期研修会】

大会：未定
期日：平成 22 年３月下旬予定
場所：未定

○実業団連盟レフェリーコース研修会「Ｂ級資格取得審査」

実業団連盟に５年間以上（プレーヤーおよびチーム関係者）関係し、実業団連盟より推薦を受けた人を対象とする。審査指導委員会の評価結果に基づき日本協会より公認審判員Ｂ級登録の資格が与えられる。

審査基準はＪＨＡ公認審判員Ａ・Ｂ級審査会に準ずる。

大会：全日本実業団チャレンジ 2010 大会
期日：平成22年２月11日（金）～13日（日）
場所：高知県

○全国大会審判員評価対象大会

１．全日本実業団選手権大会

期日：７月８日（木）～ 10 日（土）
場所：愛知県名古屋市

２．全国高校選手権大会

期日：８月２日（日）～５日（水）
場所：京都府八幡市・京田辺市・宇治市

３．全日本ジャパンオープン大会

期日：８月８日（土）～ 11 日（火）
場所：千葉県市川市・香取市

４．国民体育大会

期日：10 月２日（金）～６日（火）
場所：新潟県柏崎市・上越市

５．全日本総合選手権大会

【男子の部】

期日：12 月 17 日（木）～ 19 日（土）
場所：東京都

【女子の部】

期日：12 月 24 日（木）～ 26 日（土）
場所：香川県高松市

６．全国高校選抜大会

期日：平成 22 年３月 25 日（木）～ 28 日（日）
場所：岩手県花巻市

○審判審査指導委員会の議事内容

【第１回】

期日：10 月 17 日（土）～ 18 日（日）
場所：東京都
議題：

- 全国大会や地方大会での審判員評価や問題点に基づき、審判員に対する指導・育成の内容や方法について
- 翌年度の審判員講習会における指導内容について
- 本年度の全日本総合選手権大会担当審判員ノミネート
- 本年度の審判部合同委員会の議案作成
- 翌年度の審判部事業計画について
- 翌年度以降の審判部運営方針（短期・長期）について

【第２回】

期日：12 月 17 日（木）～ 18 日（金）
場所：東京都
議題：本年度審判部合同委員会の議案その他について

【第３回】

期日：平成 22 年１月 22 日（金）
場所：東京都
議題：

- 全国大会や地方大会での審判員評価や問題点に基づき、審判員に対する指導・育成の内容や方法について
- 翌年度の審判員講習会における配布資料の最終確認
- 翌年度の公認審判員Ａ・Ｂ級審査会受験者の書類審査
- 本年度審判部合同委員会の議案の修正と最終確認
- 翌年度の審判部事業計画の最終確認
- 翌年度以降の審判部運営方針（短期・長期）について

平成21年度 第12回ハンドボール研究集会要項

テーマ「ゴール型教材としてのハンドボール―その2―」

趣　旨　平成20年3月28日に改訂告示された小学校新学習指導要領では、5・6年生のボール運動が現行の種目の列挙を改定して3つの型に分けられ、多彩な運動が選択できるようになった。すなわち、内容の取扱いの中で、「ゴール型はバスケットボール及びサッカーを、ネット型はソフトバレーボールを、ベースボール型はソフトボールを主として取り扱うものとするが、これらに替えてそれぞれの型に応じたハンドボールなどのその他のボール運動を指導することもできるもの」とされ、さらに「学校の実態に応じてベースボール型は取り扱わないことができる」とされた。すでにハンドボールについては、従前の指導要領の全面実施によって、多くの授業実践が報告されるようになってきた。そしてほぼ10年間に渡る学校体育ハンドボール検討委員会の活動の成果として、ハンドボールは子どもたちの投能力を中心とした体力・運動能力の向上に適していることに加えて、他のボール運動より教材づくりや戦術学習が容易であること。さらに、小学1年生から6年生までの児童にとって取り組みやすく、楽しくできることなど、独自の諸特性をもっていることが明らかにされている。従って今回の改訂を受け、走・跳・投のバランスのとれたハンドボールの教材としての価値がさらにアピールされていくとともに、低・中学年のゲーム領域との関連性を考慮した一貫指導体系が確立されていかねばならないという必要性に迫られている。本研究集会では、ハンドボールの魅力や諸特性に対してさらに認識を深めると同時に、子どもたちの発育・発達に見合ったゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の構築を目指した内容について研修する。

主　催　(財) 日本ハンドボール協会　　**主　管**　東京都ハンドボール協会　　**後　援**　文部科学省　東京都 (申請中)

対　象　小学校・中学校および高等学校教諭　教員養成大学学生・大学院生および教員
地域スポーツ指導者、日本ハンドボール協会J級指導員等

会　期　平成21年8月6日 (木) ―7日 (金)

会　場　私立大成高等学校
〒181-0012　東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL (0422) 43-3196　FAX (0422) 47-6302　JR中央線三鷹駅よりバス。

日　程
■8月6日 (木)　受付　12：00 ― 12：30／開会式　12：30 ― 12：50／講演　12：50 ― 13：50　演者　東海大学教授　小澤治夫／研究発表　14：00 ― 15：10／実技研修　15：30 ― 17：00　講師　盛岡市立大慈寺小学校副校長　山本　繁／交流会　18：00 ― 20：00
■8月7日 (金)　受付　8：30 ― 9：00／授業提案　9：00 ― 11：00　小学校低学年「ハンドボール」授業・小学校高学年「ハンドボール」授業／講義　11：00 ― 12：00　講師　文部科学省教科調査官　佐藤　豊／閉会式　12：00 ― 12：15

学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局
〒010-8502　秋田県秋田市手形学園町1－1
秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座　佐藤　靖気付　TEL (018) 889-2577
FAX (018) 889-2577　E-mail：yasushi@ed.akita-u.ac.jp

大会事務局
〒112-0012　東京都文京区大塚1－9－1　筑波大学附属中学校内　小山　浩気付
TEL (03) 3945-3231　FAX (03) 3945-3886　E-mail：hkoyama@high-s.tsukuba.ac.jp

参加費　4,000円 (学生、大学院生2,000円。資料代、および保険料込み。当日受付にて徴収いたします。)

参加申込　①氏名　②年齢　③勤務先　④連絡先住所・電話番号　⑤交流会参加の有無を明記の上 (書式自由)、ハガキ、ファックスまたはEメールにて大会事務局までお申し込み下さい。
1) 締切り日：特に設けません。当日も受け付けます。(但し、宿泊希望者は下記7月15日 (水) までにお願いいたします。)
2) 派遣書が必要な場合は、その旨ご記入下さい。

発表申込　研究集会のテーマに関係する研究、および実践報告を募集します。発表を希望される方は、参加申込の上記項目に加え、⑥として発表テーマをご記入の上、学校体育ハンドボール検討専門委員会事務局までお申し込み下さい。
1) 口頭発表・質疑時間：発表時間は、質疑応答時間を含め、一演題につき約12分です。発表時間は演題数により変更することもあります。
2) 発表にはビデオ、パワーポイントまたは資料等を使うことができます。資料を配布される方は、100部程度ご用意下さい。
3) 締切り日：平成21年　7月21日 (火)
尚、資料の送付を希望される方は、期限までに大会事務局までご郵送下さい。その他、発表に関してご不明な点はお問い合わせ下さい。

宿　泊　宿泊希望者は7月15日 (水) までに大会事務局にお申し込み下さい。
「吉祥寺東急イン」〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町1－6－3　TEL (0422) 47-0109 (代)
JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」公園口 (南口) より徒歩2分。　1泊朝食付き9,000円 (予定)

平成21年度 実践研究推進校募集要項

「小学校体育科授業におけるゴール型ハンドボール教材の展開について」

1 趣 旨

小学校におけるゴール型教材としてのハンドボールの課題について、総合的に実践研究を行ない、体育科授業の充実を図るとともに、ハンドボールの普及を図る。

2 研究実践内容

（1）実践研究のテーマは次のとおりとする。

ア 児童の体力（投能力）の向上に関する取組の在り方と進め方。

イ 簡易ゲーム（タスクゲーム等）の工夫とその指導の在り方。

ウ ゴール型教材としてのハンドボールの指導体系の在り方。

エ その他

（2）推進校は、「ゴール型ボール運動」、もしくは「ゲーム」でハンドボールを取り上げ、上記の内容から二つ以上のテーマを選び、その一つを主テーマとして、実践研究を進めることとする。

3 研究実践期間 おおむね２年間とする。

4 対象推進校

各都道府県協会より推薦された小学校の中から８校程度選定する。選定は（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討専門委員会で行なう。

5 推進校の運営

（1）推進校は、校内における研究体制を整備し、必要に応じて家庭や地域との連携も図りながら、計画的、継続的に実践研究を推進する。

（2）推進校は、（財）日本ハンドボール協会、都道府県ハンドボール協会（市町村ハンドボール協会）の助言の下に実践研究を推進すること。

（3）推進校は、第１年次には実践研究の中間報告書を、また、実践研究期間の終了時には、研究成果報告書を、それぞれ日本協会の指定する様式にしたがって、都道府県協会を経由して日本協会に提出すること。

（4）日本協会は、必要に応じて推進校および都道府県協会と連絡をとり、実践研究の推進について意見および情報の交換を行なう。

6 経 費 日本協会は、研究委託費として予算の範囲内で支出委任する。委託費は、１年目が６万円、２年目が４万円とする。

7 その他 日本協会は、必要に応じて実施状況および経理処理状況について、実態調査を行なう。

8 締 切 第一次締切：平成21年７月21日（火）

9 申込、および問合せ先

ご不明な点は、以下にお問い合わせ下さい。

（財）日本ハンドボール協会学校体育ハンドボール検討委員会（代表 佐藤 靖）

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部

スポーツ・健康教育講座 佐藤研究室 TEL/FAX:018-889-2577 E-mail:yasushi@ed.akita-u.ac.jp

協会だより

平成20年度 第3回理事会

日時　平成21年2月21日（土）
　　　13:00～16:00
場所　ナショナルトレーニングセンター
　　　アスリートビレッジ研修室
出席者（敬称略、名簿順）
［理事］
渡邊佳英、市原則之、川上憲太、西窪勝広、兼子　真、角　紘昭、江成元伸、伊藤宏幸、大橋則一、島田房二、田中　茂、福地賢介、森安昭雄、高山重雄、奥田政俊、宮元章次
以上16名
［監事］川上整司、高田日呂美　　以上2名
［特任副会長］
竹野奉昭、鶴保庸介、多田　博　　以上3名
［参事］
石塚廣一、古屋正俊、小西博喜、武田節夫、稲生　茂、杉本眞一、佐藤公美、中野利一、近久紀人、笹倉清則、佐藤　靖、小山哲央、大塚文雄、志々場修二、越田義昭 以上15名
【欠席者】（敬称略、名簿順）理事：蒲生晴明、大畑孝広（委任状提出有り）　　以上2名
（事務局）茂木　均、床尾康子
以上、出席理事16名、委任状出席2名、出席監事2名、出席特任副会長3名、出席参事15名、事務局2名
議事録署名人：議長、川上憲太専務理事、兼子　真常務理事、福地賢介理事

<理事会成立の確認>

定刻に開会し、兼子総務担当常務理事より、本会議が財団法人日本ハンドボール協会寄附行為第26条に定められた、理事現在数18名中委任状出席を含め18名の出席にて3分2以上の出席があり定足数を満たしており、本理事会が成立していることが報告された。

次に議長の選出が行われ、寄附行為第25条、第3項に基づき、会長が議長となることが報告された。

渡邊会長：昨年のリーマンショックに端を発した不況は100年に一度の不況と言われ、トヨタでさえ赤字に転落している。ハンドボール界にも当然影響があり、ホンダは来期から日本リーグを撤退する。この危機を乗り切るため、ハンドボールは魅力あるスポーツなのだと再度アピールして行く必要がある。

IHFはムスタファ会長をめぐる金銭問題をミュレマター専務理事が糾弾するなど、問題を抱えている。

韓国は新会長が就任し、あらゆるカテゴリーの世界選手権に立候補予定するなど、積極的な動きが見られる。またAHFの役員選挙には副会長のポスト以下全ての委員に立候補者を出している。日本でもう一度世界的なイベントを開催したいと思っている。

多田特任副会長：経済界にはハンドボール経験のある方がいるので、協力をお願いしたら良い。また、私自身海外勤務経験もあるので、国内国外両面でお役にたてればと思う。

鶴保特任副会長：日教組の教育方針にスポーツ選手の育成には格差をとの提言があり、もしそのような事があれば連絡をして欲しい旨お願いされた。議員の中にハンドボール経験者が多いので議連を作れる可能性が出てており動き出したい。

<議事録署名人の選出>

続いて、渡邊議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、川上憲太専務理事、兼子真常務理事、福地賢介理事が指名され、満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．平成20年度第二次補正予算（案）について

兼子会計担当常務理事より説明された。

一般会計の事業活動収入は、特別登録料の免除、大会運営方法の変更による入場料収入なし、強化遠征削減による個人負担金減により、15,200,000円減収となり243,255,180円と補正する。また一般会計の事業活動支出は、強化遠征削減等で21,199,000円支出が減り137,111,640円と補正する。特別会計では若干の補正を行い、総事業活動費443,812,000円、総事業活動支出468,694,960円で事業活動収支差額は、マイナス24,882,960円と一次補正額より6,580,000円の節約となり、次期繰越収支差額は72,208,130円となることが報告された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成21年度事業計画（案）について

川上専務理事より説明された。

鶴保特任副会長より、和歌山は国体を控え、体育館の建て替えを進めているが、十分な確保ができていない。日本協会として何かできないのかと質問された。

江成常務理事より、岡山県では国体開催時に体育館の数が少なく、新たに立て替えた。県内にこだわらない開催も考えられる。体育館については早めに開催される県に働きかけたい。本国体開催期間の前後期を競技間でうまく利用することも出来そうだと回答された。

市原副会長より、コートの縦の長さが38mきり取れないが、よろしいかという問い合わせを聞いたことがあるが、ルール上決して譲歩してはいけない。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成21年度予算案について

兼子会計担当常務理事より報告がされた。

平成20年度とほぼ同様の予算要望が出されたが、そのままでは当期収支差額がマイナスとなるため、ほぼ一律に10%カットの予算編成を行った。一般会計の事業活動収入は、前年度並みの242,819,580円とした。一般会計の事業活動支出は、強化費用の削減等で242,811,280円としてかろうじて収支差額を8,300円とプラスにした。特別会計ではtoto売れ行きが好調であったことから、振興基金からの助成金を大幅に見込み、総事業活動収入441,300,000円、総事業活動支出430,291,700円で事業活動収支差額は、積立金が含まれてマイナス16,491,700円とした。この結果、次期繰越収支差額は55,716,430円となった。

市原副会長より、経済環境の厳しい中、スポンサーを降りたいという企業が出てくる事が危惧される。予算減に対しては創意工夫をもって対応し、事業規模を縮小するべきではないと述べられた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成21・22年度役員選任について

先週の評議員会で、渡邊会長、川上専務理事両名の留任の承認を得た。それ以外の役員人事については会長に一任されている。

川上専務理事から、3月20日の新理事会までに人事案を示すとした。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．平成21年度JOC専任コーチ等推薦について

西窪常務理事より、平成20年度と同じメンバーを推薦したい旨、説明があった。

小西参事より、選手を育成するためには、まず良い指導者を育てる必要がある。日本リーグの指導者だけでは駄目で、特に高校生育成に実績のある監督を加えて欲しいと要望された。

西窪常務理事は、「酒巻、黄の両監督それから私も、来期はリーグ戦のベンチには入ら

ない。また各カテゴリーに若い人達に入ってもらっている」と回答があった。

小西参事より、井薫さんがスポーツイベント誌上でハンドボール界に提言をしてくれている。人選は幅広くし、思い切った人事をすべきだと意見があった。

高山理事より、指導スタッフの選出はブロックを通してほしいと要望された。

西窪常務理事は、強化スタッフの人選は各ブロックと相談の上、実行したいと回答された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．全日本社会人連盟設立について

川上専務理事より、厳しい経済環境の下で、ハンドボール界の組織について改善を加えていかなければならない。社会人連盟設立について提案したい。

市原副会長より、昨年のサブプライムローン問題に端を発した景気悪化は、百年に一度といわれる程の大不況とも言われている。ホンダが来期から全日本総合等には出るものの、日本リーグからは撤退する事となった。かかる事態に予め対応できる組織が必要であり、チーム活動資金が減るところに対して受け皿を作ることも大事である。実業団という名称は時代にそぐわなくなっている。また、実業団選手権や実業団チャレンジなどチームの経費負担も多い。そこで組織を簡素化し、日本リーグ機構と全日本実業団連盟を包含した、全日本社会人連盟の設立を提案する。日本リーグ新ディビジョンの設立は選手に活動の場を提供するための受け皿作りある。現在参加チームの募集を開始し、4月にはチームへの説明会、今秋には第1回大会を開催する予定だ。

宮元理事より、九州では、南北の地域リーグが出来ている。北が10チーム、南が9チームで沖縄にも7チームによるリーグがある。試合をする機会を多くしている。また会場は日本リーグチームの体育館を借りている。

稲生参事より、関東では首都圏リーグをやっている。一番の悩みは1人1チームという登録制度で、これがネックとなっている。

高山理事より、やはり1人1チームという登録制度がネックと意見が出された。

市原副会長より、登録問題がクリア出来る様に検討したいと回答された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．日体協評議員（JOC理事監事選任）について

日体協評議委員については、1月常務理事会で市原副会長と決めた。また、JOC理事監事選任については、JOC役員の1年間任期延長が決着していないので案内がまだ来ていないが、届いた場合には市原副会長とすることが提案された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．強化関係報告

西窪常務理事より説明があった。

3．平成21年度ドーピング検査について

兼子常務理事より説明があった。

西窪常務理事より、JOC福田強化本部長より大麻問題について注意喚起を促す文書が、日本協会あて届いている。日本リーグ各チームにも配布したと説明された

4．第2回日本スポーツグランプリ推薦、平成20年度叙勲候補者推薦について

兼子常務理事より説明された。スポーツグランプリは愛知県協会太田耕治名誉会長を候補としたい。叙勲候補者は対象がいないので見送りたいとした。

5．平成20年度日本協会表彰について

兼子常務理事よりお願いされた。

6．平成21年度登録について

兼子常務理事より、登録業務必携に基づき説明された。

7．平成21年度国内・国際大会日程について

江成常務理事は、女子世界選手権日程変更に伴い、第61回全日本総合は男女別開催となる。男子については予定通り東京駒沢で開催するが、女子については開催希望があれば、手を挙げて頂きたいと依頼された。

8．平成21年度会議日程について

伊藤常務理事より、来年度常務理事会の開催時間について、NTCは昼食がとれる場所がないので、13:30開始としている。

9．競技に関する事項、国体他について

江成常務理事より説明された。平成21年度競技に関する事項については協会ホームページに掲載した。

兼子常務理事より、国体イベントとして、第64回国民体育大会では、サイン会はイベントとしてセキュリティの問題があるので行わない。7mTコンテストは好評なので実施予定と説明があった。

10．審判合同委員会報告

島田常務理事より、平成20年度審判合同委員会について説明された。

11．国際関連事項について

兼子常務理事より、第17回AHF通常総会及び第1回ユースオリンピック競技大会について説明された。

12．日韓定期戦について

大橋常務理事より、日韓定期戦について説明された。

13．機関誌について

近久参事より説明され、来期から経費削減の為、年9回の発行となるが、更なる内容の充実に努めたいと述べられた。

14．日体協公認コーチ養成講習会他について

笹倉参事より、日体協公認コーチ養成講習会等について説明された。

15．マスターズ大会について

小山参事よりマスターズ大会について説明された。昨年実施の大会では、63チームが参加し、人数は821名であった。

16．がんばれハンドボール10万人会

中野参事より、がんばれハンドボール10万人会は既に10万人を突破しており、名称変更を検討している。20万人会が候補だが、問題は印刷物の在庫があることだ。特別法人会員を新設したい。またペアチケットに不公平性出ており、サポート会員は県により格差があると説明された。

市原副会長より、名称は直ぐに変えなければならない。また政財界人にアプローチして会員になってもらったらどうかと提案された。

予定していた議案について全て終了したので、監事と副会長から挨拶があった。

川上監事より、防衛大臣がハンドボール経験者だと聞いている。ハンドボールには聖地と言われる場所がない。普及のためには必要と考える。また宮﨑大輔はテレビに良く出ているが、ハンドボールの試合の放映が少ない。オリンピックでメダルを取ったチームを招待するなどして盛り上げを図ったらどうか。

高田監事より、選手・役員・審判の国際舞台での活躍を期待している。最近中学高校の指導者が替ってきておりチーム数の減少も見られる。もっと指導に目を向ける必要を感じる。

市原副会長より、厳しい経済環境下であるが、ネガティブにならないようにしたい。子供達に贈り物をしたい。2016年東京オリンピック招致に関し、2月11日IOCに立候補ファイルを提出した。東京は前回の1964年から半世紀が経過し、開催のタイミングとしては良い。また、4,000億円の準備金積立もある。それにひきかえ、マドリッドは同じスペインのバルセロナで1992年に開催しているし、2012年にはロンドンで開催される。シカゴは1984年にロスアンゼルス、1996年にアトランタとアメリカで開催されている。リオデジャネイロは2014年にサッカーのワールドカップが開催され、きついのではと考えられている。東京開催のネックは国民の関心度が低い（74％）ことである。4月15日から20日までIOCの評価委員が来日する。スポーツの素晴らしさをアピールして、国民の関心度をあげたい。

第4回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

開催期日：2009年3月26日（木）〜30日（日）
会　　場：富山県・氷見市ふれあいスポーツセンターほか

【男　子】

▼1回戦

培　　良（京　都）35（10−13、17−14）30 白　　子（三　重）
（5−1 延長 3−2）
隼　　人（鹿児島）31（16−9、15−10）19 尾花沢（山　形）
境港第一（鳥　取）28（14−9、14−18）27 山梨北（山　梨）
富岡南（群　馬）31（13−7、18−7）14 羽　　後（秋　田）
井吹台（兵　庫）27（14−10、13−12）22 戸　　田（埼　玉）
松　　崎（福　岡）32（17−8、15−6）14 本　　通（北海道）
住　　吉（山　口）29（16−3、13−9）12 鳴門市第一（徳　島）
日　　吉（長　崎）22（12−9、10−10）19 郡山第一（福　島）
野木第二（栃　木）27（16−9、11−11）20 三本木（青　森）
はとり（愛　知）39（23−6、16−20）26 滝　　尾（大　分）
市　　川（千　葉）23（12−12、11−6）18 大　　瀬（奈　良）
三　　松（宮　崎）31（13−13、18−12）25 介　　良（高　知）
花巻北（岩　手）29（12−11、17−13）24 金　　町（東　京）
更埴西（長　野）34（18−13、16−16）29 那　　賀（和歌山）

▼2回戦

浦　　西（沖　縄）32（17−14、15−17）31 培　　良（京　都）
花巻北（岩　手）27（15−10、9−14）26 久　　米（愛　媛）
（1−1 延長 2−1）
大野南（神奈川）19（9−9、10−8）17 更埴西（長　野）
千代田（茨　城）33（13−14、20−17）31 西南部（石　川）
隼　　人（鹿児島）34（15−14、19−13）27 氷見南部（開催地富山）
三　　松（宮　崎）30（13−12、17−11）23 中　　田（宮　城）
氷見北部（富　山）36（18−6、18−6）12 清水第二（静　岡）
玉　　名（熊　本）28（15−5、13−8）13 住　　吉（山　口）
井吹台（兵　庫）43（21−3、22−4）7 甲　　田（広　島）
香川第一（香　川）34（16−11、18−8）19 境港第一（鳥　取）
神　　埼（佐　賀）42（22−6、20−5）11 野木第二（栃　木）
富岡南（群　馬）26（12−14、14−11）25 明　　倫（福　井）
日　　吉（長　崎）27（9−8、18−5）13 倉敷天城（岡　山）
松　　崎（福　岡）35（18−6、17−11）17 野洲北（滋　賀）
はとり（愛　知）24（10−5、14−13）18 大体大附（大　阪）
ヴァルト岐阜（岐　阜）24（12−4、12−11）15 市　　川（千　葉）

▼3回戦

浦　　西（沖　縄）28（16−8、12−13）21 千代田（千　葉）
ヴァルト岐阜（岐　阜）31（15−9、16−9）18 日　　吉（長　崎）
玉　　名（熊　本）25（15−7、10−7）14 富岡南（群　馬）
三　　松（宮　崎）28（12−8、16−11）19 大野南（神奈川）
はとり（愛　知）34（16−9、18−11）20 花巻北（岩　手）
松　　崎（福　岡）20（9−6、11−13）19 香川第一（香　川）
隼　　人（鹿児島）25（14−12、11−11）23 井吹台（兵　庫）
神　　埼（佐　賀）27（11−12、16−9）21 氷見北部（富　山）

▼準々決勝

玉　　名（熊　本）21（8−9、13−8）17 浦　　西（沖　縄）
はとり（愛　知）34（16−7、18−11）18 隼　　人（鹿児島）
ヴァルト岐阜（岐　阜）29（13−12、16−15）25 三　　松（宮　崎）
神　　埼（佐　賀）22（9−10、13−10）20 松　　崎（福　岡）

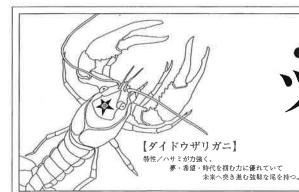
▼準決勝

はとり（愛　知）23（12−11、11−9）20 玉　　名（熊　本）
神　　埼（佐　賀）32（16−11、16−13）24 ヴァルト岐阜（岐　阜）

▼決　勝

はとり（愛　知）25（14−9、11−11）20 神　　埼（佐　賀）

【女　子】

▼1回戦

塩　　山(山　梨) 24 (15－4、9－12) 16 鳴門市第一(徳　島)
香川第一(香　川) 22 (12－7、10－6) 13 石　　川(福　島)
氷見南部(開催地) 19 (10－2、9－6) 8 中　　田(宮　城)
原　　北(福　岡) 35 (19－1、16－4) 5 清水第二(静　岡)
原　　川(大　分) 27 (12－4、15－6) 10 甲田クラブ(広　島)
神　　森(沖　縄) 18 (9－1、9－7) 8 石　　橋(栃　木)
倉敷天城(岡　山) 30 (14－7、16－6) 13 富岡南(群　馬)
久　　保(山　口) 53 (26－4、27－1) 5 柏刈・柿崎(新　潟)
日　　野(長　崎) 20 (10－7、10－4) 11 城　　北(高　知)
小松南部(石　川) 17 (9－6、8－6) 12 本　　通(北海道)
北　　浦(茨　城) 27 (16－9、11－13) 22 豊中第九(大　阪)
上　　野(愛　知) 28 (17－7、11－7) 14 花　　園(千　葉)
光　　陽(福　井) 30 (16－2、14－6) 8 雄　　新(愛　媛)

▼2回戦

塩　　山(山　梨) 28 (15－9、13－10) 19 佐賀清和・神埼(佐　賀)
上　　野(愛　知) 30 (11－10、13－14) 28 大　　住(京　都)
(3－1　延長　3－3)
笹　　川(三　重) 20 (7－8、13－7) 15 北　　浦(茨　城)
大　　瀬(奈　良) 30 (18－6、12－9) 15 日　　野(長　崎)
氷見北部(富　山) 22 (11－0、11－4) 4 羽　　後(秋　田)
東久留米西(東　京) 26 (9－11、17－8) 19 香川第一(香　川)
光　　陽(福　井) 27 (17－3、10－4) 7 舞　　鶴(鹿児島)
原　　北(福　岡) 37 (19－2、18－6) 8 立命館守山(滋　賀)
原　　川(大　分) 28 (12－8、16－9) 17 望　　海(兵　庫)
氷見南部(開催地) 28 (10－3、18－5) 8 境港第三(鳥　取)
倉敷天城(岡　山) 16 (7－5、9－7) 12 茅野東部(長　野)
鶴　　城(熊　本) 22 (10－7、12－11) 18 久　　保(山　口)
神　　森(沖　縄) 31 (15－8、16－7) 15 荒　　川(和歌山)
小松南部(石　川) 26 (13－5、13－5) 10 延　　岡(宮　崎)
三郷北(埼　玉) 38 (18－9、20－10) 19 花　　巻(岩　手)
西中原(神奈川) 23 (8－6、15－8) 14 羽　　島(岐　阜)

▼3回戦

氷見北部(富　山) 29 (12－7、17－6) 13 塩　　山(山　梨)
鶴　　城(熊　本) 21 (13－10、8－9) 19 三郷北(埼　玉)
倉敷天城(岡　山) 18 (7－8、11－5) 13 原　　北(福　岡)
光　　陽(福　井) 21 (15－4、6－5) 9 笹　　川(三　重)
上　　野(愛　知) 24 (10－7、14－9) 16 小松南部(石　川)
神　　森(沖　縄) 25 (13－7、12－8) 15 氷見南部(開催地)
原　　川(大　分) 25 (13－10、12－10) 20 東久留米西(東　京)
大　　瀬(奈　良) 25 (12－10、13－9) 19 西中原(神奈川)

▼準々決勝

氷見北部(富　山) 22 (14－7、8－12) 19 倉敷天城(岡　山)
原　　川(大　分) 27 (10－7、17－8) 15 上　　野(愛　知)
光　　陽(福　井) 17 (8－8、9－7) 15 鶴　　城(熊　本)
神　　森(沖　縄) 29 (15－8、14－5) 13 大　　瀬(奈　良)

▼準決勝

氷見北部(富　山) 30 (14－9、16－9) 18 原　　川(大　分)
神　　森(沖　縄) 27 (12－9、15－13) 22 光　　陽(福　井)

▼決　勝

神　　森(沖　縄) 23 (12－8、11－12) 20 氷見北部(富　山)

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」4・5月入会・継続会員

【北海道】加藤　慶仁　【岩　手】中舘　豊、高橋　元一　【茨　城】浜田　裕一、阿部　研一　【栃　木】石田　正彦　【群　馬】品田　鮎美　【埼　玉】菊地　知男、細津　誠、佐藤　秀明、根城　泰　【千　葉】明里　慎治、舎利弗 芳子　【東　京】緑川　正博、塩川　安賢、杉山　茂、出原　理、中澤　重夫、大塚　文雄、大下　壮一、梶間　珠美　【神奈川】石井　美和、松岡　正彦、近久　紀人、中丸　英一、佐分　正典、萩原　裕太、斉藤　航大、久保　公雄、久保　靖子、吉澤　和美、萬福　利香　【富　山】金原　至、吉田　守　【石　川】酒谷　信彦　【愛　知】高井　久美、西川　勤也、浅野　克彦、村木　啓作、山本　幸代、川合　育郷、西口　貴子　【大　阪】吉田　敏明、大井　隆史、草井　文子、大西　和雄、井口　昭　【兵　庫】川原崎 雅彦　【奈　良】松江　徹、松江 眞理子　【和歌山】田中　秀和、志賀　義生、能木　進　【広　島】大橋　季彦、山下　明子、小山　章　【山　口】野村　晃久　【福　岡】田中　守、松尾　勝也、浅野　衛　【佐　賀】久保田　秀光

【7月の行事予定】

【会議】

7月11日(土)　常務理事会（東京）

【大会】

7月8日(水)～12日(日)
高松宮記念杯第50回全日本実業団選手権大会　（愛知県・名古屋市）

7月18日(土)～20日(月)
第29回全国クラブ選手権大会・西　（愛媛県・松山市）

7月25日(土)～26日(日)
第29回全国クラブ選手権大会・東　（福島県・本宮市）

7月29日(水)～31日(金)
第22回全国小学生大会　（京都府・京田辺市）

7月31日(金)～8月2日(日)
第17回全日本マスターズ大会　（愛知県・豊田市）

HAND BALL CONTENTS Jun. Jul.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

JAPAN、名品の系譜。

機能だけではない、風格のようなものがなければならぬ。
先端のテクノロジーでさらにパワーアップした機能を備えて
新しくなったスカイハンドJAPANシリーズ。
グリップ力に優れた国産ラバー採用のJAPANラバーソールと、
しなやかで通気性のあるエクセーヌを使ったカラーアッパーに
ソール前足部のベンチレーションホール等々。
インドアを制するミドルカットとローカットが揃った。

足入れ感を高めてクラシカルな名品復刻モデル。

スカイハンド® JAPAN-MT
THH514 ¥16,800(本体¥16,000)
● カラー：5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm

名品スカイハンドSPのフォルムを受け継いだローカットモデル。

スカイハンド® JAPAN-S
THH515 ¥15,750(本体¥15,000)
● カラー：2300 レッド×パールホワイト
5093 ネイビーブルー×シルバー
● サイズ：23.0～29.0cm

株式会社アシックス

アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。 表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。( )内は消費税抜きの本体価格です。http://www.asics.co.jp 商品についてのお問い合わせは「アシックスお客様相談室」までどうぞ。03-3624-1814、06-6385-1155

世界の空へ、笑顔を乗せて。

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五〇一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二十一年六月二十六日印刷 平成二十一年七月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円